





18
825
8



唯嫌 一枝
梅の花が結梅スギル
三ツクノ方尺ノ梅ナモ
ハシラシルニハニヤワシ
ニヨクワヤト村ノ梅花
一枝ヲハテケシタテ
マツル毎
月瀬梅花ノ詩ニコ
ノ詩ハハカカナ如ク
モフシヨクハツカサカ
カマツコレハツカサカ
天モツクヨルコノ梅大
作ヲ学ブトヤノコ
ナラト云
誰引 花
梅ナク春寒ノ村
ニカガコノ梅ナ
老人ヲ引テ苦ナ
シムルコトハ
ニタイユコフシテ
寒コトヲカシテ
キク

山陽遺稿卷之六

賴襄 子成著

辛卯

獻日野公楳二種

折得檀香凝玉脂、自然富貴亦天姿、唯嫌不類野人獻、故
副村梅花一枝

月瀬梅花之勝耳之久矣、今茲糾諸友往觀、得六絕

句

東風料峭雨絲斜、泥滿芒鞋一路賒、誰引老夫來喫苦、直
將戟手罵梅花

山陽遺稿卷之六 詩

雪已如屋命半多
梅花作天スニホコル
雪穿此雪

雪穿此雪
雪穿此雪
雪穿此雪

水与
倒
東風
香
杖

月
梅
杖

梅花於我底因緣屋已與渠樓半分泚水船岡看未足更

穿山跡萬重雲

傍水環村幾簇煤高低相映盡花開吾穿此雪肌何粟出

雪翻然入雪來

地不爭天ヲル梅大勢配先臣一ニ天梅花水

倒
杖

東風
香

帶將清氣卻歸家在眼溪山玉絕瑕非觀和州香世界此生何可說梅花

訪雪堂老人幽居

依稀春月在梅花影壓柴門橫且斜喜得幽人未眠去風聲定處認琵琶

曾達

有喜
酒

法園

燈

乏有客辨旨有日落花逾明怯聞華鯨吼燈火亂月明躑

雪已如屋... 梅... 雪... 梅... 雪... 梅... 雪... 梅...

梅花於我底因緣屋已與渠棲半分... 穿山跡萬重雲... 傍水環村幾簇梅高低相映盡花開吾穿七...

四首目

水与

水与... 梅花... 影... 斜... 横... 山... 玉... 絶... 瑕... 非... 觀... 和... 州... 香... 世界... 此...

倒

倒... 梅花... 影... 斜... 横... 山... 玉... 絶... 瑕... 非... 觀... 和... 州... 香... 世界... 此...

東風

東風... 梅花... 影... 斜... 横... 山... 玉... 絶... 瑕... 非... 觀... 和... 州... 香... 世界... 此...

帶將清氣卻歸家在眼溪山玉絶瑕非觀和州香世界此生何可說梅花

訪雪堂老人幽居

依稀春月在梅花影壓柴門横且斜喜得幽人未眠去風聲定處認琵琶

喜得... 幽人... 未眠... 去風... 聲定... 處認... 琵琶...

曾

曾... 梅花... 影... 斜... 横... 山... 玉... 絶... 瑕... 非... 觀... 和... 州... 香... 世界... 此...

有

有... 梅花... 影... 斜... 横... 山... 玉... 絶... 瑕... 非... 觀... 和... 州... 香... 世界... 此...

乏有客辨旨有日落花逾明怯聞華鯨吼燈火亂月明踪

燈火亂月明踪

雪已如屋... 梅... 雪... 屋... 作... 天... 云... 半... 多... 屋... 又... 作... 天... 云... 半... 多...

雪穿此雪... 雪... 穿... 此... 雪... 雪... 穿... 此... 雪... 雪... 穿... 此... 雪... 雪... 穿... 此... 雪...

在眼... 眼... 在... 眼... 眼... 在... 眼... 眼... 在... 眼... 眼... 在... 眼... 眼... 在... 眼... 眼... 在... 眼...

喜得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得... 喜... 得...

梅花於我底因緣屋已與渠棲半分泚水船岡看未足更
穿山跡萬重雲
傍水環村幾簇棧高低相映盡花開吾穿此雪肌何粟出
雪翻然入雪來
兩山相蹙一溪明路斷游人呼渡行水與梅花爭隙地倒
涵萬玉影斜橫
萬樹梅圍溪水長芳山寧敢擅春芳東風一樣晴雲白孰
與此中雲有香
帶將清氣卻歸家在眼溪山玉絕瑕非觀和州香世界此
生何可說梅花

訪雪堂老人幽居
依稀春月在梅花影壓柴門橫且斜喜得幽人未眠去風
聲定處認琵琶
夜過信侯信侯為我演平語壇浦一齣
茫茫鯨海葬纓簪到耳琵琶意淺淡赤馬紫溟曾歷處四

踏街
山嵐
樹
之有客辨旨有日落花逾明怯聞華鯨吼燈火亂月明躑

之有客辨旨有日落花逾明怯聞華鯨吼燈火亂月明躑

煤花於我底因緣屋已與渠棲半分泚水船固看未足更
穿山跡萬重雲泚水一傍水環村幾簇煤高低相映盡花開吾穿此雪肌何粟出
雪翻然入雪來ホシタヲニシテアルナリ兩山相蹙一溪明路斷游人呼渡行水與梅花爭隙地倒
涵萬玉影斜橫萬樹梅圍溪水長芳山寧敢擅春芳東風一樣晴雲白孰
與此中雲有香帶將清氣卻歸家在眼溪山玉絕瑕非觀和州香世界此
生何可說梅花

雪穿此雪... 穿山跡萬重雲... 傍水環村幾簇煤... 雪翻然入雪來... 兩山相蹙一溪明... 涵萬玉影斜橫... 萬樹梅圍溪水長... 與此中雲有香... 帶將清氣卻歸家... 生何可說梅花

訪雪堂老人幽居

依稀春月在梅花影壓柴門橫且斜喜得幽人未眠去風
聲定處認琵琶カナル如テホロシクヒロウノフトス

夜過信侯信侯為我演平語壇浦一齣

茫茫鯨海葬纓簪到耳琵琶意淺淡赤馬紫溟曾歷處四
絃喚起十年心シテ如シヤヨシテ今四絃ノヒラカクテ十年前ノ赤馬紫溟ヲ思フ

看花知恩院適逢君夷來

花看意中花友逢意外友休言是意外吾心待汝久曾違
尋芳約半春罵滿口能來及此時一笑同我酒不愁看核
乏有容辨旨有日落花逾明怯聞華鯨吼燈火亂月明躡

喜得... 依稀春月在梅花... 聲定處認琵琶... 夜過信侯... 茫茫鯨海... 絃喚起十年心... 看花知恩院... 花看意中花... 尋芳約半春... 乏有容辨

猶龍石每石一君イニ
ナリニテククカシ云テタ
マツセル
此花
コノ山嵐少ク花ハ年ハ
ミルケレバコノ君イ毎
ク折ニクルトハ云キ
云々ノナク

街相先後嵐峽更有花再遊當攜手

同君夷再遊嵐峽

嵐山不必賞一遊已云多問吾何再往如吾友來何又踞
昨由路攜手卅里多呼杯解倦疲得句借礮磨半山成嫩
綠幾樹尚殘葩此花可歲看此友寧錯過

又

吹老東風又放晴欲遊嵐峽再離城有花固可無花可唯

喜與君攜手行

仁和寺看櫻花

仁和寺櫻花林斗ハ
昔シテヨリニ秘テタル

脫履當年意正淡仁和仰認舊花林白櫻爛熳不成子辜

脱履
家ニ都ニ為ル牛平
子マサガ自念ヲテ
フル(脱履)ヲ仁和寺
ハ法親王ニヤツテヲイ
シハ西國ニシタマフ
クマセタモノニテマコトニツマサガ
出テシテ誠ニヤリ
マセタモノニヤリト云

白櫻
心ハ櫻花モハ見事ニヤイテモ何モミラセシハ東國ハ昔ハ
心ハ心ノムケルヲ三ツコノ句ヲツマサガ法親王ニ
マセタモノニヤリト云

負東風培植心

送君夷赴浪華

一支港水塵容刀野菜香中撐短篙昨共看花知那處半

半生

王安石が半生ハ高クイッソク以テ周官ヲ誤
コロトヤリ

中書

臣全安石ハ中書ニ從所ニ居テ色ニ變法ヲ立ルモ
位ニ有ハ自今ナカラム虎ニツクソクニヤウノオモフテヤツク

何若

臣ハ安石ガ色ニ大ニ愛シテヤルハ中ニ鐘山ニ遊テ
フルヤスキハカナイハセ又云一ニテ何ハイラサル法ヲ
コノ山嵐少ク花ハ年ハミルケレバコノ君イ毎ク折ニクルトハ云キ云々ノナク

三卷ニテ下右ニナル
然シテ水杜鵑聲

喜協至

備龍石磨石君イニ
ナリニテクカシ云テタ
マツセル
此花
コノ風山ノ花ハ年
ミルケレハコノ君イ毎
折ニクルトハ云キ
云々ノナリ

街相先後嵐峽更有花再遊當攜手

同君夷再遊嵐峽

嵐山不必賞一遊已云多問吾何再往如吾友來何又踞
昨由路攜手卅里多呼杯解倦疲得句借礮磨半山成嫩
綠幾樹尚殘葩此花可歲看此友寧錯過

又

吹老東風又放晴欲遊嵐峽再離城有花固可無花可唯

喜與君攜手行

仁和寺看櫻花

脫屣當年意正淡仁和仰認舊花林白櫻爛熳不成子辜

脫屣
家ノ都ノ為ニ牛平
子マサガ自念ヲ
ヲル(脱)ヲ仁和寺
ハ法親王ニヤツテ
ソハ西國ニシタ
クマセタモニテ
出テハ云ハシ
都ヲ西國ニシタ
都ヲ西國ニシタ

白櫻
心ハ櫻花ノ見事ニヤ
心ハ櫻花ノ見事ニヤ

負東風培植心

送君夷赴浪華

一支港水塵容刀野菜香中撐短篙昨共看花知那處半

半生

王安石が半生はるイツツタ周官ヲ誤ク
コロトヤリゾウタ
倭テケツカツテ

中書

臣王安石が中書に役所ニ居テ色々ニ変法ヲ立ルモ
位ノ高カラモ虎ノツグトクニヤウクオモフテヤツタ
何若
フルヤスキハカナイハセ又云
ニテ何イラサル法ヲ
然ル水杜鵑聲

何若

卷三十七下右ニナル
然ル水杜鵑聲

喜協至

備龍名海石君イニ
ナリニテクカシ云テタ
マツセル
此花
コノ風山ノ花ハ年々
ミルケレバコノ君イ海
ノ折ニクルトハ云キ
云々ノナリ

脱履
家ノ都ノ為ニ牛平
子マサガ自ニ云テ
コノ親王ニヤツテイ
シハ西國ニシタ
出テハ云ニヤ
コノ西國ニシタ
コノ西國ニシタ

白櫻
心ハ櫻モノハ見事ニヤ
心ハ櫻モノハ見事ニヤ
心ハ櫻モノハ見事ニヤ
心ハ櫻モノハ見事ニヤ

街相先後嵐峽更有花再遊當攜手

同君夷再遊嵐峽

嵐山不必賞一遊已云多問吾何再往如吾友來何又踞
昨由路攜手卅里多呼杯解倦疲得句借礮磨半山成嫩
綠幾樹尚殘葩此花可歲看此友寧錯過

又

吹老東風又放晴欲遊嵐峽再離城有花固可無花可唯

喜與君攜手行

仁和寺看櫻花

脱履當年意正淡仁和仰認舊花林白櫻爛熳不成子辜

負東風培植心

送君夷赴浪華

一支港水塵容刀野菜香中撐短篙昨共看花知那處半

白雲

誰把
何レタテナイ天下ガ騷動ニチラ子バヨイガ云テ感懐又起シタカアルソレノ外ノ人ガ畢竟
世ノ中ガ由テクルト衰テクルト天然ニシテ解テソノホトキスガ天津橋カクテナイタハ
幸イニフアツタヤヤタ人カルガソノヲニシテ解テハ天下ノオモルル筆カナイ巨テ右ノ
イ巻ニシテ右ニナル

喜協至

備龍名所君イニ
ナヲニククカシ云々
マツセル
此花
コノ山ノ花ハ
ミルケレバコノ君イニ
折ニクルトハ云々
云々

街相先後嵐峽更有花再遊當攜手
同君夷再遊嵐峽

嵐山不必賞一遊已云多問吾何再往如吾友來何又踞
昨由路攜手卅里多呼杯解倦疲得句借礮磨半山成嫩
綠幾樹尚殘葩此花可歲看此友寧錯過

又

吹老東風又放晴欲遊嵐峽再離城有花固可無花可唯
喜與君攜手行

仁和寺看櫻花

仁和寺ハ仁和寺ノ花ハ林斗ハ
昔シテヨリニ秘スルヲ

脫屣當年意正淡仁和仰認舊花林白櫻爛熳不成子辜

脫屣
家ノ都ニ在リ牛平
子マサハ自ニ云テ
ヲレ(脱)仁和尚
ハ法親王ニヤツテ
ソハ西國ニシタ
フクセクモニテマコトニツマサハ都ニ西國ニ在リキスツルコトニ都ヲ
出テハ云々

白櫻
心ハ櫻モハ見事ニヤイテモ何モミラセシム車如カ昔ハ云々
心ハシムクモコノ句ヲツマサハ法親王ニヤツテ西國ニ在リキスツルコトニ都ヲ
マセタモノヤハ云々

負東風培植心

送君夷赴浪華

一支港水塵容刀野菜香中撐短篙昨共看花知那處半
山斜照塔梢高

方ニ野菜香中作テ有テセシムヲサヲテ
舟コイテカツテユクヲヨリナク

讀王荆公傳

王荆公ハ
王安石

輸著韓王記魯論半生誤讀偽周官中書十歲曾騎虎何
若鍾山驢背安

青苗魚肉兩河兵白雪龍衣五國城誰把興衰付天數幸
然洛水杜鵑聲

喜協至

一支
高瀬川ハ至
中ニセリ川ハ至
マサハ自ニ云テ
ソハ西國ニシタ
フクセクモニテマコトニツマサハ都ニ西國ニ在リキスツルコトニ都ヲ
出テハ云々

青苗
魚肉ハ
民百姓始河南北
兵百姓始河南北
天云々

千役一逸 子役ハ役ヲ下ルルヲ梅屋ハ隱居ニシテタルヲ不侍ニ方ハ江ノ方ハ
 山陽ハ隱居ニシテタルヲ不侍ニ方ハ江ノ方ハ
 山陽ハ隱居ニシテタルヲ不侍ニ方ハ江ノ方ハ

別協後一日

昨向湖橋分手旋驛程屈指到何邊
 連晴知汝行無滯
 起輿窻觀岳蓮

依杏翁韻送協

京畿扶老記童年 祗役如今侍講筵
 旅服單衣迎夏日 官程
 尊食趁晨煙 卅齡成學國恩在
 兩世授經家法傳 公退預知多暇日
 閉門邸舍讀夷堅

金閣

金閣寺ハ足利三代將軍義滿ノ取ルル寺ニテ
 今ノ金閣寺ハ足利三代將軍義滿ノ取ルル寺ニテ

京畿一十年 八協 公退 且那 且那 且那

義詮

義滿

相見

想見

想見

想見

想見

想見

無如 巨小猿大 山名ヤ細キ山名ヤ雄氣ヲアテ西陣 東陣トシ
 一ノ右ノ兩人ハ 誠ニ張テイキニモ改メテヤシク居テ人達ヲ子
 毛依討テアヤセシ

獨有 中ノ巨モハヤ コノ氏タレ一人アア改メテ今ニ從フモノハナシニ成テ所テ
 ホニ銀閣寺ノ庭ニ石バケイガ多クイ、サツセル様ニシラレテソルヨリ
 所ノ親ヌル舞ニイタ苗モノ知テアヤアワツセナシクナリ

參差 内ニナシクモ六ノ歳モスホテ 淋テニイカワシキコト云ニ苗ヲヨリ
 屋匿 情ニ長キ公卿ノイテイカワシク詩巻ヲ四ヤ申スルコト云ニ苗ヲヨリ

夫公卿ヤ 茶室ノ首ヲアツテ申シテ出合人マツタ様ガ氣ガシヨフタニヨテ
 持巻ヲケニスルコトニ思イ、カシマセウタニヨテ 大ニ四返リ申スルコト云ニ苗ヲヨリ

千役一逸千役ハ後ヲツトル梅屋ハ隱居シテタルハ後ヲ新テ常スル山陽
ハ隱居シテ逸シテハサルヨテソコノ悻ハ後ヲ新テ常スルシテハサル山陽

昨向湖橋分手旋驛程屈指到何邊連晴知汝行無滯
起輿窻觀岳蓮

依杏翁韻送協

京畿扶老記童年祗役如今侍講筵旅服單衣迎夏日官
程尊食趁晨煙卅齡成學國恩在兩世授經家法傳公退
預知多暇日閉門邸舍讀夷堅

金閣

金閣寺ハ足利三代將軍義滿ノ取ル夕夕寺ニテコノ南朝北朝一統
シテシマツクヤ

京畿一十年ハ協
が祖々々春水ヲ多ク
天京ニキタ井ハマコトニマ
外童年天アツタ
コノコト
公退一堅ハ世カ
且那ハ天海ス
耐テシリカトマア
至天國賜ガ多イニ
天カラス自カハル長
ハイテ門ヲシテ耐天
夷堅モモク他カ
ヨ
根極一ハ三代將軍義滿
シテシマツクヤ

義詮

義滿

相見一ハ定天義滿ハハシキ威光ヲフイタテタ
テアムトダモラテニル
コトナク

無如一巨ハ猿太ゴトキキ山名ヤ細川名雄氣ヲア云西陣東陣トシ
シテ右ハ西人ハ誠ニ勢又張テイキニテモ多政ハ茶ノ汁ヤシ居テ人達ヲ守
モ必討ヲアセシ

獨有一中ハ巨モハヤコノ片タレ一人アテ多政今ニ從スモハナシニ成テ耐テ
ホシノ銀閣寺シ度ニ石ガカクガ多政ハサツセル様ニシラレテル也ク

参差

参差ハハテヨシ成タリシテ梅地ハ後イニ成テアワスル也

屋

情ハ屋ハ公ノ御ノイテイカシテ詩卷ヲシカヤ申スル也

マシタガコレハ安分仰アヤシマストイテクムサレヲ安公ハ詩卷ヲケニスルタビトニハ
夫公仰ヤ茶翁ハ首ヲアツタ山出合ハマツタ様ハ氣ハシヨフタニヨテコノ
詩卷ヲケニスルトニ思イタレマセウタニヨテ大ニ西返ルヤスルガヲクカシ
タヒ

綺 閱

風吹號帶指江門要汝夷庚共一尊汗役棲遲異勞逸天

風吹號帶指江門要汝夷庚共一尊汗役棲遲異勞逸天

別協後一日

昨向湖橋分手旋驛程屈指到何邊連晴知汝行無滯掀
起輿窻觀岳蓮

依杏翁韻送協

京畿扶老記童年祗役如今侍講筵旅服單衣迎夏日官
程尊食趁晨煙卅齡成學國恩在兩世授經家法傳公退
預知多暇日閉門邸舍讀夷堅

金閣

金閣寺足利三代將軍義滿所取也寺有三塔南朝北朝一統
ニシテシツク在リテ其ノ詩ハ可戯言ノ極ナレト世ノ戯言ハワケカ

義詮

狼狽誰料竟生羆想見牙鬚張猛威銀閣何如金閣熱併
容南北日光輝

銀閣

大樹蕭蕭秋帶風無如猿犬各稱雄獨有玲瓏數拳石從
君建置小園中

大樹一巨木大樹モ
カレツテ秋風ヲ帶
テ葉ガハラハル

幾人一箇ハハツシガモヌステイコシクニヨテソコテ筆ハモガ
出テ又シノモ
又筆ハカキリテタクト色ニシテ帳面ニツクタルスルガケレ
筆ハアイトモツカハルガワイルモツカハルガクナク

祗役親親相背行參差六歲太忙生遲還詩卷君休怪閱

原梅坡之詩
シテ作テニセルト云

風吹號帶指江門要汝夷庚共一尊汗役棲遲異勞逸天

涯相見亦君恩

別協後一日

昨向湖橋分手旋驛程屈指到何邊連晴知汝行無滯掀
起輿窻觀岳蓮

依杏翁韻送協

京畿扶老記童年祗役如今侍講筵旅服單衣迎夏日官
程尊食趁晨煙卅齡成學國恩在兩世授經家法傳公退
預知多暇日閉門邸舍讀夷堅

金閣

狼狽誰料竟生羆想見牙鬚張猛威銀閣何如金閣熱併
容南北日光輝

銀閣

大樹蕭蕭秋帶風無如猿犬各稱雄獨有玲瓏數拳石從
君建置小園中

畫免

擣藥祗當在廣寒拔毛何事向塵寰幾人因汝結冤業綺
語長留天地閒

原梅坡寄詩卷求評卷尾有茶翁詩依韻書

祗役覲親相背行參差六歲太忙生遲還詩卷君休怪閱

風吹號帶指江門要汝夷庚共一尊汗役棲遲異勞逸天

涯相見亦君恩

昨向湖橋分手旋驛程屈指到何邊連晴知汝行無滯掀
起輿窻觀岳蓮

依杏翁韻送協

京畿扶老記童年祗役如今侍講筵旅服單衣迎夏日官
程尊食趁晨煙卅齡成學國恩在兩世授經家法傳公退
預知多暇日閉門邸舍讀夷堅

金閣

狼狽誰料竟生羆想見牙鬚張猛威銀閣何如金閣熱併
容南北日光輝

銀閣

大樹蕭蕭秋帶風無如猿犬各稱雄獨有玲瓏數拳石從
君建置小園中

畫免

擣藥祗當在廣寒拔毛何事向塵寰幾人因汝結冤業綺
語長留天地閒

原梅坡寄詩卷求評卷尾有茶翁詩依韻書

祗役覲親相背行參差六歲太忙生遲還詩卷君休怪閱

原梅坡寄詩卷求評卷尾有茶翁詩依韻書

此猶為聚首情

送雲華師之讚

コレハモヤウ外ノ人
ホハ中ノイカン云フ

梅斷雲青八栗峰錫飛波白一帆風遙知維纜松城岸先

問能詩漆谷翁

ハ積物ノ高松城也天アラフガ高松城ハエカシクス白レカノ
ヲヨク作ル際右公府人ホモツク向ヒナサル云アラフト遙キニシ

松

幾年養就老龍鱗淡壑時為龍一吟免得庸工加刻削萬

層雪底歲寒心

雪ノ中ニヲツテモアヒカラクホ青ニシテタル云フニテ外
自ククヲ松ニクテ云

懸厓雙清圖

雙清ハヨホカタ竹ト蘭トナ
ニクモテアラフト云云

懸厓無土猶能活苦節有朋堪盡簪唯許仰看何許折世

人何識兩冰心

兩心ハ云ハ蘭ト竹ト至テキ
レイ大心云フナリ

梅斷一見云云
青多成父知云云
見云舟云云
送知云云
松城云云
松云云
若層云云
懸厓云云
苦節云云
朋友云云

著作一 意ハ色ニ大書物アラワス一ハアラワシタケレタレニ云云
シテナヲシテモラヲフト思フ人カナイ云云

書懷

病來一尋シサテ痲氣ハ本松ノ時節ニナルト誠ニ冷氣
ニヲカサレテエコラエシ

鴨水潺湲月在林病來節候忽侵尋蟲聲繞屋知秋及樹

影升階覺夜淡著作無人堪託意家鄉有母每關心茫茫

身世憑誰計悄倚殘燈伴獨吟

每一作獨
吟一作永

書徐侯齋集後

明相ノキヨキ土ハ徐侯齋ノ内ノ山トアリトモヤウ今マ
三ツクテ徐侯齋ハヒトイギイ今マ明相ノ内ノ江山ヲウツテ

父書猶見淚痕斑且寫憂心筆研閒一步出門無淨土尺

縑自寫舊江山

縑ハ心ヲハシテ書クモノ也
湘瀟一 湘瀟湘云云秋同カ吹テヨキ景ノ如カナカク

題瀟湘圖

瀟湘一 瀟湘湘云云秋同カ吹テヨキ景ノ如カナカク
雨ニシテアラマコトニシレハヲモシヨイ

清波掩映萬篔簹浙瀝秋聲遠盆長寄跡紅塵寸金地空

從尺幅見瀟湘

清波一 篔簹ハ情波ノ中ニ矢ニセル竹トドカハ山ニハ八テ
ヲツテハミヲヒ映レル云云

寄跡一 相レ云付テハ
今ヨク西位ノ土地ニ
住シ居ルヨク瀟湘
三ツクテ景ノヨク如
クホフトシテモイカニ
ヲホシテハ八國ノ如
クウラヤンテヨク云フ

國香徒 易
蘭 寧能
一尺一寸 尺一寸

國香徒自惜知己逢豈易幽谷風露清月光相媚寧能與蕭艾爭彼尺寸地

中秋元瑞至得蒸

煙消大月出峰稜恰有吟朋命瘦藤如此中秋須有句檢書不復就紅燈

實甫至

兩鞋蹋破百峰青抵階洗脚識君聲路過大湖獲湖魚出籃細鱗吾眼明四年不逢知我老一咲依然見君好溫我酒膾君魚朱肪堆盤截紅珠袖中更出新詩草佐酒又堪

當漢書

題月峰父子合作山水

庭闈弄墨足承歡兒作林叢爺作山要使老毫無蹙滯故低樹杪受孱顏

杏堂墨竹倩余補石樗生囑也

清貌

杏堂墨竹倩余補石樗生囑也

士德士德唯一弟留在京師

汝向天涯別第去吾將鄉裡省親行洗杯瀟水姑同醉忘

詩

六

杏堂墨竹倩余補石樗生囑也

要便 願 題 庭 闈 弄 墨 足 承 歡 兒 作 林 叢 爺 作 山 要 使 老 毫 無 蹙 滯 故 低 樹 杪 受 孱 顏

朱 肪 堆 盤 截 紅 珠 袖 中 更 出 新 詩 草 佐 酒 又 堪 兩 鞋 蹋 破 百 峰 青 抵 階 洗 脚 識 君 聲 路 過 大 湖 獲 湖 魚 出 籃 細 鱗 吾 眼 明 四 年 不 逢 知 我 老 一 咲 依 然 見 君 好 溫 我 酒 膾 君 魚 朱 肪 堆 盤 截 紅 珠 袖 中 更 出 新 詩 草 佐 酒 又 堪

國香徒
蘭
寧能
尺寸
地
實甫至

國香徒自惜。知己逢豈易。幽谷風露清。明月光相媚。寧能與蕭艾。爭彼尺寸地。

中秋元瑞至得蒸

煙消大月出峰稜。恰有吟朋命瘦藤。如此中秋須有句。檢書不復就紅燈。

實甫至

兩鞋蹋破百峰青。抵階洗脚識君聲。路過大湖獲湖魚。出籃細鱗吾眼明。四年不逢知我老。一咲依然見君好。溫我酒膾君魚朱肪堆盤截紅珠。袖中更出新詩草。佐酒又堪

朱肪
實甫
酒
實甫至
實甫至
實甫至

當漢書

題月峰父子合作山水

庭闈弄墨足承歡。兒作林叢爺作山。要使老毫無蹙滯。故低樹杪受孱顏。

杏堂墨竹情余補石樗生囑也

清貌
杏堂墨竹情余補石樗生囑也

汝向天涯別第去。吾將鄉裡省親行。洗杯瀆水姑同醉。忘

汝向天涯別第去
吾將鄉裡省親行
洗杯瀆水姑同醉
忘

國香徒易 蘭寧能 尺寸尺寸 己逢己逢 豈易豈易 幽谷幽谷 風露風露 清明清明 月光月光 相媚相媚 寧能寧能

國香徒自惜。知己逢豈易。幽谷風露清。明月光相媚。寧能與蕭艾。爭彼尺寸地。

中秋元瑞至得蒸

煙消大月出峰稜。恰有吟朋命瘦藤。如此中秋須有句。檢書不復就紅燈。

實甫至

兩鞋蹋破百峰青。抵階洗脚識君聲。路過大湖獲湖魚。出籃細鱗吾眼明。四年不逢知我老。一咲依然見君好。溫我酒膾君魚朱肪堆盤截紅珠。袖中更出新詩草。佐酒又堪

當漢書

題月峰父子合作山水

庭闈弄墨足承歡。兒作林叢爺作山。要使老毫無蹙滯。故低樹杪受孱顏。

杏堂墨竹倩余補石樗生囑也

佛頭著糞昔曾聞。頑石今挨碧玉根。清貌醜姿同墨派。洒將殘瀋為招魂。

辛卯九月十六日西省發程舟下漢水示同行白石

士德士德唯一弟畱在京師

汝向天涯別第去。吾將鄉裡省親行。洗杯漢水姑同醉。忘

國香徒易 蘭寧能 尺寸尺寸 己逢己逢 豈易豈易 幽谷幽谷 風露風露 清明清明 月光月光 相媚相媚 寧能寧能

朱肪 實甫至 兩鞋蹋破百峰青 抵階洗脚識君聲 路過大湖獲湖魚 出籃細鱗吾眼明 四年不逢知我老 一咲依然見君好 溫我酒膾君魚朱肪堆盤截紅珠 袖中更出新詩草 佐酒又堪

國香徒 蘭 尺寸 己逢 豈易 幽谷 風露 清明 月光 相媚 寧能

志御 情一云士德

ハフ、ニ別、天キ、ヨツ、
悲、方、コ、方、ハ、又、在、如、親、
見、舞、二、ハ、言、天、管、
吾、舍、舟、
方、ハ、マ、ツ、大、坂、ア、カ、ツ、
舟、ス、テ、タ、ト、云、ト、ヨ、
ハ、ハ、又、舟、ハ、ツ、ナ、ト、
イ、テ、淡、路、ハ、方、ユ、云、
井、ニ、ツ、ツ、セ、タ、云、
ナ、

秋、風、客、鬢、倍、霜、新、
又、理、行、裝、出、軟、塵、
鞋、鞅、仍、奔、千、里、路、
家、
鄉、須、省、七、旬、親、
山、川、已、厭、經、陳、迹、
往、反、唯、娛、訪、故、人、
未、見、
慈、顏、姑、小、住、
不、妨、談、笑、酒、沾、脣、
淡、山、於、我、何、有、情、
華、城、伴、送、赤、石、城、
城、東、旗、店、例、爲、醉、
淡、

秋、風、客、鬢、倍、霜、新、
又、理、行、裝、出、軟、塵、
鞋、鞅、仍、奔、千、里、路、
家、
鄉、須、省、七、旬、親、
山、川、已、厭、經、陳、迹、
往、反、唯、娛、訪、故、人、
未、見、
慈、顏、姑、小、住、
不、妨、談、笑、酒、沾、脣、
淡、山、於、我、何、有、情、
華、城、伴、送、赤、石、城、
城、東、旗、店、例、爲、醉、
淡、

淡、山、於、我、何、有、情、
華、城、伴、送、赤、石、城、
城、東、旗、店、例、爲、醉、
淡、

淡、山、於、我、何、有、情、
華、城、伴、送、赤、石、城、
城、東、旗、店、例、爲、醉、
淡、

淡、山、於、我、何、有、情、
華、城、伴、送、赤、石、城、
城、東、旗、店、例、爲、醉、
淡、

淡、山、於、我、何、有、情、
華、城、伴、送、赤、石、城、
城、東、旗、店、例、爲、醉、
淡、

山陽先生遺稿卷六

却悲歡此際情

到浪華會小竹赴淡

人聲燈影浪華磯吾舍舟時君解維警爾相逢便爲別聞

雲西去鶴南飛

用承弼韻

秋風客鬢倍霜新又理行裝出軟塵鞋鞅仍奔千里路家

鄉須省七旬親山川已厭經陳迹往反唯娛訪故人未見

慈顏姑小住不妨談笑酒沾脣

淡山歌

淡山於我何有情華城伴送赤石城城東旗店例爲醉淡

山對面喚欲應喚山同醉山不答自此分背終離別吾時

上高一回頭山猶依依遙相揖竢吾此行還幾時知汝一

笑先展眉廿年京攝多交友久要似汝果阿誰

舞妓灣

松翠沙明數戶村鮮鱗上店佐匏尊每過一醉終成例不

記泥鴻第幾痕

歸路幾多天竺葉天來天去天來天去天來天去天來天去

西時 踏長年葉天竺葉天來天去天來天去天來天去天來天去

敢言初減恤儒餐自此可無憂

却悲歡此際情
到浪華會小竹赴淡
人聲燈影浪華磯
吾舍舟時君解維
警爾相逢便為別
閒雲西去鶴南飛

用承弼韻

秋風客鬢倍霜新
又理行裝出軟塵
鞋鞵仍奔千里路
家鄉須省七旬親
山川已厭經陳迹
往反唯娛訪故人
未見慈顏姑小住
不妨談笑酒沾脣
淡山於我何有情
華城伴送赤石城
城東旗店例為醉
淡

淡山歌

山對面喚欲應
喚山同醉山不答
自此分背終離別
吾時上高一回頭
山猶依依遙相揖
竢吾此行還幾時
知汝一笑先展眉
廿年京攝多交友
久要似汝果阿誰

舞妓灣

松翠沙明數戶村
鮮鱗上店佐匏尊
每過一醉終成例
不記泥鴻第幾痕

永權
救母
...

...

志卻 情一云士德
ハフニ別テキハ又ハヨク
悲方コトハ又ハ在如親
見舞ニハ言テ置ル
吾舎舟 大坂アツク
舟ヲステテ又トヨク
小舟ハ又ハ舟トシテ
イテ淡路ノ方ニユク
片ニツクセタム云

秋風客鬢倍霜新
又理行裝出軟塵
鞋鞮仍奔千里路
家鄉須省七旬親
山川已厭經陳迹
往反唯娛訪故人
未見慈顏姑小住
不妨談笑酒沾脣

淡山於我何有情
華城伴送赤石城
城東旗店例爲醉
淡山歌
淡山於我何有情
華城伴送赤石城
城東旗店例爲醉
淡山歌

舞妓灣
松翠沙明數戶村
鮮鱗上店佐匏尊
每過一醉終成例
不記泥鴻第幾痕

却悲歡此際情
到浪華會小竹赴淡
人聲燈影浪華磯
吾舍舟時君解維
瞥爾相逢便爲別
閒雲西去鶴南飛
用承弼韻
秋風客鬢倍霜新
又理行裝出軟塵
鞋鞮仍奔千里路
家鄉須省七旬親
山川已厭經陳迹
往反唯娛訪故人
未見慈顏姑小住
不妨談笑酒沾脣
淡山於我何有情
華城伴送赤石城
城東旗店例爲醉
淡山歌
舞妓灣
松翠沙明數戶村
鮮鱗上店佐匏尊
每過一醉終成例
不記泥鴻第幾痕
途上感懷二首
就丁每怕妨農收
夾路甌窰正滿篝
跛處忙驅籃輦過
晒時苦戒草鞋蹂
糴騰陸奧古無例
禾穫山陽今有秋
夔緯敢言初減恤
儒餐自此可無憂

山陽先生遺稿卷六
詩 七

首目コレハ長州が公家
イコトシテ其ノ物ト云
長州大イニ物ト云
六十年モ其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云

兵氣一今大水
門ハ内ハ長物動
亦ヤウシイ長物動

五歳
山ガ死セヨ人丁度五
年目ニルガマコト三
コトクテ守モトマツ
コトクテ守モトマツ

無光
キテモ中ニ桑山先生
ノ厚キ思ヲムク
モイカシホシノ微
カシハヤシハナラ
カシハヤシハナラ

處
處ハ古シ桑山先生
ノ厚キ思ヲムク
モイカシホシノ微
カシハヤシハナラ
カシハヤシハナラ

會記
會記ハ詩袋ノト
ニテ其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云

浪跡
浪跡ハ古シ桑山先生
ノ厚キ思ヲムク
モイカシホシノ微
カシハヤシハナラ
カシハヤシハナラ

儷
儷ハ古シ桑山先生
ノ厚キ思ヲムク
モイカシホシノ微
カシハヤシハナラ
カシハヤシハナラ

潢池消息首堪搔西望秋風弄怒濤廊廡何人勞
支有吏析秋毫誰驅赤子俄離乳各鬻黃牛競佩刀
原謀樂王母救饑不月餉蟠桃

山榴紅玉顫野菊鬱金香節物羈心動晴暄農穫忙
稼雲連播備兵氣獨防長善相思封事何邊二萬鄉

過廉塾先生嘗寄余詩徵次韻余未果而先生逝矣
今而次之

辦香蕙帳意何如五歲流年不暫居垂老未能酬厚誼
微勞纔得校遺書在心舊雨綠尊處回首斜陽黃葉廬
歸省

從今知幾度祗應沿例駐征車
到竹原會杏翁在焉同集龍山精舍壁挂乙丑歲諸
老舊題字分爲韻余得年

會記
會記ハ詩袋ノト
ニテ其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云
其ノ物ト云

墨依稀廿七年
注：韓謂之帡囊也說文亦釋帡爲囊並音
鄧蓋同一字索隱以字體類卷故
云云耳今余平用并疏以質博雅

浪跡回頭已廿年重逢大阮竹林邊一杯并飲鄉山綠
洗得紅塵暫洒然

到廣嶋
鄉枌已在眼潮退舟膠沙儷艇趁昏黑如歸心急何家江

下宮... 櫓... 丁寧舟子力搖櫓欲及阿

熟知繫舟渚。暗中豫指近家處。丁寧舟子力搖櫓。欲及阿。嬢未眠去。

恨無... 唯覺... 自念... 向... 更吸... 詎知... 百姓...

中 骨 發 壓 倉 庭 能

億方... 萬... 舟中... 丁寧舟子力搖櫓欲及阿

可憎... 遊... 王魚... 吾雞... 幻舟... 後醍醐... 山陽... 後醍醐... 山陽... 後醍醐... 山陽...

分 歌 目 元 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

恨無 一 強及レモコノ方モウシテ并殺シ中ニ子ヲツテキバテコノ夕ワラヌ穿テ
縦横ニ年ヲクイカラカスフノイセシ一ノウラム伝フヤ
唯覺 一 尻伝ハ誠ニ我百奈ドムクワガメグツテコノ方ニ區テブルニトテテ
ウツケルト又シラガツカテ誠ニコノウモナキキウクツチ
自念 一 牢シコノ方ハドフコト罪ヲ以テコノ格ニ并殺シ牢フ屋ニバツテ
向マテ知ハ目ニミナゴロシテシマツテソフシテコノ句ヨウ後カス存マテ
コシテマツ
丑種 一 常シコノ方ハ誠ニ五殺モワカテワキマヘル一モテキズミツテソフシテ
テコシコトテ何モ働キ常スル一モセズ実ニ初体ナキ一ヤ
更吸 一 喰シムハツ子平生一ルヲ吸テ居テソノマヤモスレハヨビテ成テシマ
詎知 一 膏シ實ニコノ方ハ耕作スル苦ハシラシケレ氏ニ子ヲホシテハコト
百姓 一 血ヲマツツシタモトヤ

可憎 一 承レ伝ハ今ニ至ルマテ後醍醐ノ威靈亦右ノゴトヲ知テソルニ後醍
醐モ時ニアタテハゴトクワイル足利ナドヲ得シシマワセタヌ一ヨシナ
遊人 一 伝セ方野山ノ遊ニクルモノハ後天見テモトナクハ後ヤサ一寸モシラ
ニアルモガ多イ伝一ニテコノ如テ遊人伝字ヲイレルニヨテ初一十株一雪伝ウモ
キイテキテ尾毛白イ
玉魚 一 伝モハヤハ廟ニツテアツタ玉魚ノ先クモナク誠テ解テタガ花ハ
禮ニ陵カレルヤ
吾難 一 史コノ方ハ誠ニ身ヲヒク井モテ中ケラ同格大モトヤケレヒマツコノ大地
ニスルカキイテハ王臣下ニヤニヨテテヒシカニ和史ヲサシニ後醍醐帝ノ如
成テキテコトテ誠ニ後天世帯テ感シテカイタ
勾芻菜 一 跪勾芻菜伝ハ新キイアエキノ位ニモテ知山陽自分一ノヲヒケシテ
云ク一ニテコノ方ハ陽モ陽モ陽ニ向テ後醍醐ノ山陽イテナダサント歌シテコト
コトバテ陵系テテテ狗ノ排シヒサマク伝一ニテコノ方ハ如ハ早亮題ミク格大モ
テ維昔天滿伝知ヨク山陽カノルコトバニテ勾芻菜コレモ山陽系テノテイ氏後醍
醐ニマナク申シテモトヤヤニヨテ後醍醐一ヤカクワイル一ハイワズシテフ
クマセタモノナ

下宮... 槽... 熟知繫舟渚。暗中豫指近家處。丁寧舟子力搖櫓。欲及阿

嬢未眠去。槽ヲウチカシテクレヨト云テイ子イニタム...

合會有り... 熟合會... 人か...

治乱... 教自... 此中...

價直... 此中... 常視...

常視... 陶...

維著... 躬... 天子...

又弄... 躬... 天子...

庸精... 躬... 天子...

此心... 躬... 天子...

人非... 躬... 天子...

都... 躬... 天子...

大政... 躬... 天子...

下宮... 櫓... 丁寧舟子力搖櫓... 欲及阿

熟知繫舟渚。暗中豫指近家處。丁寧舟子力搖櫓。欲及阿
孃未眠去。

利涉... 鱗... 堆... 缺處

從竹原航赴廣洲。附載輸稅船。逼促殊甚。終夜不能
寐。賦此遣悶。得十六韻。

吾行屬秋穫。利涉附租艘。鱗鱗滿艙載。堆壘幾百苞。缺處

吾行屬秋穫。利涉附租艘。鱗鱗滿艙載。堆壘幾百苞。缺處

擁衾睡。曲身弓在弦。新礮異陳腐。嫩香襲巾綈。身非大倉

擁衾睡。曲身弓在弦。新礮異陳腐。嫩香襲巾綈。身非大倉

鼠穀裏。託窟巢。恨無牙穿此。縱橫恣老饕。唯覺環逼我。壓

鼠穀裏。託窟巢。恨無牙穿此。縱橫恣老饕。唯覺環逼我。壓

頭還蹙尻。自念吾何罪。以穀為獄牢。五種不分辨。四體廢

頭還蹙尻。自念吾何罪。以穀為獄牢。五種不分辨。四體廢

勤勞。更吸其精液。淋漓動醅醕。詎知耕耘苦。粒粒積血膏。

勤勞。更吸其精液。淋漓動醅醕。詎知耕耘苦。粒粒積血膏。

合儻有所欠。鞭笞期煎熬。治亂繫豐耗。價直候低高。此中

合儻有所欠。鞭笞期煎熬。治亂繫豐耗。價直候低高。此中

雖跼脊。何敢為。替替常視在瓶缶。酸寒同老陶。億萬玉粒

雖跼脊。何敢為。替替常視在瓶缶。酸寒同老陶。億萬玉粒

堆。暫擁足自豪。

堆。暫擁足自豪。

謁延元陵詩

謁延元陵詩

千株萬株花如雪。中有一邱蠹翠樾。松邪柏邪錯杉檜。蟠

千株萬株花如雪。中有一邱蠹翠樾。松邪柏邪錯杉檜。蟠

根互護天龍骨。樵蘇相戒不敢觸。觸則風怒雲攫山欲裂。

根互護天龍骨。樵蘇相戒不敢觸。觸則風怒雲攫山欲裂。

可惜威靈尚如此。當時不能殄蛇豕。遊人不知何帝陵。玉

可惜威靈尚如此。當時不能殄蛇豕。遊人不知何帝陵。玉

魚光闕落花裡。吾雖螻蟻亦玉臣。曾私帶淚修前史。芻蕘

魚光闕落花裡。吾雖螻蟻亦玉臣。曾私帶淚修前史。芻蕘

唯使 利元弘 初北條高

難事。唯使君操心常如元弘。初不憂邦有百足利。顧命按

顧命 志ハ後醍醐モ臨終キハ英雄ニ色ト遺言ヲシテハ崩キキニ

成者今ハモヤホンノサヲ野ニ降ガル斗天誠ニモ後久イゴカ色ト思テガザル

志ヲトツカミ土テウズンテ解ニアル也

雖也 横ハシカシガカエ古初野ニ立テ位ニ向ニシテ大イキム人カタレガクニナコ

ニテ又ツテワルモノヲ殺シテ解テ居テ縦横ニシテイハ三夫南朝ノクニ自ラテシタ

天定 長臣ツツ天下モ定テ解テ名ハ賊ノ足利ナドニスニ居タ如モ

コソトチ成テシマツテシタ又多ク賊ノ死シタ骨ヲ大ニブテカツテモクライハセヌ也

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔シテ血ヲ初カキレニ侍ツテタルヲ天白ニモ先

視カスニレヒテ初カキレノ心求ハ昔シテ血ヲ初カキレニ侍ツテタルヲ天白ニモ先

ワカユヘナリ

一家將軍十五世。逐世雷像知成例。寺僧猶記大檀那。森

仁山 高氏ノ一子高氏ハ誠ニ天下又スミトノニシタ位ニヤツシヤヨシテ空テ英雄

野高氏ハ人ヲアサムイタシタハミナ思癡ナリヲシテアザム

狼 野高氏ハ人ヲアサムイタシタハミナ思癡ナリヲシテアザム

足見 相タハサガクマナコテフシレタボフタホテイカニモ少イ面

猜 長ハハイキラウ村ナ女配ガ顔ハ出テタルヲコトシテ先院

次列 神ニ福ニシテハスイカ面ニアラワレテ居テアルガゴノ義徳人

又次 東山ハハイテ系子ノヤツテ居タ多ククライヤ也

曹把 起シ長ハ東山公ガ系後カクヲ把テイサ道カテ系子ヲ起

コザル内 天下中ガ騷動ニ成テ丁度カナニル如キツイ山名ヤ細川起

テキテモ東山公ハシテモ傳征伐ヲサツセ

誰 詔 歟 口 母 而 詩 山 豚 顔 由 弓 由 九 軍 歷 世

難事。唯使君操心常如元弘。初不憂邦有百足利。顧命按

顧命 志ハハ後醍醐モ臨終ホハ英雄ニ色ニト遺言ヲシテハ崩キキニ

雖 志ヲトツカシテ土テウズルヲ解ニアルト

天定 食ハツ天下モ定テ爾タ名ハ賊ニ足利ナドハスニ居タ如モ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

一家將軍十五世。逐世畱像知成例。寺僧猶記大檀那。森

コソトチ成テシマツテソノ又ト多ト賊ハ死シタ骨ヲ大ニブテカツテモクライハセヌ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天定 食ハツ天下モ定テ爾タ名ハ賊ニ足利ナドハスニ居タ如モ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

天家 此ハ天子ノ心求ハ昔キラス血ヲ初カキレニ侍ツタルヨシ

唯使君操心常如元弘初不憂邦有百足利顧命按劍語空雄一杯長埋萬禩志雖然五十年間萬生靈為誰膏鋒尸縱橫臣正成死君在時心已明臣義貞懷君遺詔亦結纓此輩忠肝纍纍及孫仍盡為君王死不與賊共戴天生天定賊巢亦終覆死骨饑犬犬不食天家依舊傳日嗣自祖宗視無南北中興偉舉警百世陰制姦雄不肆毒噫嘻君王可瞑目余嘗再謁欲作詩敘私感而未果今而追作以補缺昔父執竹山翁嘗作此詩

觀等持院室町氏歷世肖像引

一家將軍十五世逐世留像知成例寺僧猶記大檀那森

逐世一例云弘足利尊氏ヨリコノカク像ヲ作テ留テラケルガ例ニナツテシマツタ云々

仁山尊氏云 狼尊氏化 豚犬義詮 三虎義滿 普光義持云

列龕房謹啓閉吾曾刪史詳乃家觀影擬證左右契仁山想具英雄骨長面緩頰疑庸劣瞞人正憑癡與黠狼生豚犬犬生虎眼垂魚尾豐頰輔足見盈滿奄父祖猜忍溢顏知普光應寫養髮髮已長次列髻童見薄福墮馬未必由寬魄又次丈夫何雄偉卻是東山茶博士曾把碗匙換弓箭海內真如鼎沸起嗚呼自古不可貌取人况乃隆替由於心倘使祖孫易位設興家敗家錯認真偽定一時已九死持逆犯順事倍難奈何子孫生則逸自謂在胎已將軍一覺糜費六十萬將怨歸己權歸臣十個木偶亦金鏡歷歷往事炯萬春五葉么麼何足錄還將虛器鬪骨肉歷世

積惡酬汝曹。家宰陪奴皆作賊。身且不保像何有。可憐猶

歷世

積惡酬汝曹。家宰陪奴皆作賊。身且不保像何有。可憐猶

將軍

將軍が舞多ヲスルハニヤクイカキタ云一ニサアソコテ足利

身

向モ像モヘナモアソコセシケレトモマツカイトンモ将軍

神庫

以紀即日之事且以謝子幹

以紀即日之事且以謝子幹

廟宇駕鼈頭。玲瓏疑乾闥。神庫依絕境。祕藏千古物。海龍
所呵護。相戒慎鑰鑄。世守吾所知。黃緣恣覽閱。蕊經平族
寫繭紙。字楷粟晶軸。金籤題銅函。卷弃八標。罽錯繪圖。隱
謎難辨詰。驕汰均兒女。佞媚憑神佛。威權消雪冰。痕迹存

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

神庫

神庫ニ有テ元元トシ

託 待 列 利 氏 割 劍 神 諱 沒 舟

神庫ニ有テ元元トシ

神庫ニ有テ元元トシ

神庫ニ有テ元元トシ

神庫ニ有テ元元トシ

積惡酬汝曹。家宰陪奴皆作賊。身且不保像何有。可憐猶

歷世

將軍が... 賊ハ誠ニ... 終悪ハ... 足利... 向モ像モ... 同席...

廟宇駕鼈頭。玲瓏疑乾闥。神庫依絕境。祕藏千古物。所呵護。相戒慎。鑰鑰世守吾所知。黃緣恣覽閱。蕊經平族寫。繭紙字楷粟。晶軸金籤題。銅函卷奔八。標罽錯繪圖。隱謎難辨詰。驕汰均兒女。佞媚憑神佛。威權消雪冰。痕迹存

絶頂... 年... 録... 常... 嶋... 世... 神... 人... 蕊... 粟...

神庫

託胎

獨欽

應授

世代

仁山

憶獲

神庫ニ所テ元... 託胎... 獨欽... 應授... 世代... 仁山... 憶獲...

積惡酬汝曹。家宰陪奴皆作賊。身且不保像何有。可憐猶
得列其側。此亦欲作而未果者。中間歷敘處。頗用飲
中八僊韻法。唯彼通一韻。此換五次耳。

觀嚴嶋神庫詩并序

八神主

辛卯孟冬十八日。奉母詣嚴嶋。因祠官佐伯子幹。得
觀神庫所藏古物。遂命舟同醉歸館。次第二十八韻
以紀即日之事。且以謝子幹。

廟宇駕鰲頭。玲瓏疑乾闥。神庫依絕境。祕藏千古物。海龍
所呵護。相戒慎鑰鑰。世守吾所知。黃緣恣覽閱。蕊經平族
寫。繭紙字楷栗。晶軸金籤題。銅函卷弃八。標罽錯繪圖。隱
謎難辨詰。驕汰均兒女。佞媚憑神佛。威權消雪冰。痕迹存

廟宇 嚴嶋 神庫 物 伝ハ
天寶物土花山
絶頂テモ中ノ
年モ古シモテ
後シテモ
海龍 鑰鑰 世守 吾所知 黃緣 恣覽 閱 蕊經 平族 寫 繭紙 字楷 栗 晶軸 金籤 題 銅函 卷弃 八 標罽 錯繪 圖 隱 謎難 辨詰 驕汰 均兒女 佞媚 憑神佛 威權 消雪冰 痕迹 存

阿隆 札伝大内義隆が犀伝ケタモノ、皮元作タ鏡ヲ嚴嶋上テ
何知 密伝大内義隆が賊ハハカクモニコソツト、コトレテシツテ
更見 秘伝大内義隆が賊ハハカクモニコソツト、コトレテシツテ
江公 血伝毛利元就が賊ハハカクモニコソツト、コトレテシツテ
義舉 日シサテソノ元就がハルカク天代イイサハ、誠ニ義ハアルイイサハ
一揮 異國ニトイ揮テシツテ

阿隆 札伝大内義隆が犀伝ケタモノ、皮元作タ鏡ヲ嚴嶋上テ
何知 密伝大内義隆が賊ハハカクモニコソツト、コトレテシツテ
更見 秘伝大内義隆が賊ハハカクモニコソツト、コトレテシツテ
江公 血伝毛利元就が賊ハハカクモニコソツト、コトレテシツテ
義舉 日シサテソノ元就がハルカク天代イイサハ、誠ニ義ハアルイイサハ
一揮 異國ニトイ揮テシツテ

積惡酬汝曹。家宰陪奴皆作賊。身且不保像何有。可憐猶
得列其側。此亦欲作而未果者。中間歷敘處。頗用飲
中八僊韻法。唯彼通一韻。此換五次耳。

觀嚴嶋神庫詩并序

八神主

辛卯孟冬十八日。奉母詣嚴嶋。因祠官佐伯子幹。得
觀神庫所藏古物。遂命舟同醉歸館。次第二十八韻
以紀即日之事。且以謝子幹。

廟宇駕鰲頭。玲瓏疑乾闥。神庫依絕境。祕藏千古物。海龍
所呵護。相戒慎鑰鑰。世守吾所知。黃緣恣覽閱。蕊經平族
寫。繭紙字楷栗。晶軸金籤題。銅函卷弃八。標罽錯繪圖。隱
謎難辨詰。驕汰均兒女。佞媚憑神佛。威權消雪冰。痕迹存

平族所納法華經。每卷
引首画。所謂蘆手書者。痛哉養和帝。紉衣蜀錦纈。託

胎狼虎家。葬骨蛟鼉窟。獨欽小松公。輕甲遺浴鐵。應撰待

鷓首

サテ太閤が朝鮮征伐ニ出掛キニハ。ゴサ。舟ヲ。コ。ヤ。シ。ロ。ノ。色。ニ。
ツイテ。ライ。テ。ソ。ン。唐。四。百。年。カ。ト。ソ。ン。テ。ト。ツ。テ。シ。オ。ホ。ト。云。一。テ。嚴。嶋。

人事

サテ。人。ノ。云。モ。ハ。誠。ニ。ヤ。相。ノ。ト。ク。ニ。変。シ。テ。シ。マ。ウ。ガ。コ。ノ。イ。ツ。ク。シ。マ。ノ。
山。ハ。イ。ツ。マ。テ。モ。カ。ク。ン。ビ。テ。マ。ル。云。ノ。ナ。リ。

大息

シ。ソ。テ。初。シ。神。庫。依。絶。境。云。句。カ。イ。キ。テ。ク。ル。ト。大。仙。曰。

所右赫赫如前日。毛和元朝。獻以賽神。最後一長刀。獻者諱
秀吉。一揮掃蜻蜒。再揮指溟渤。鷓首繫廟廊。默禱吞日没。
大閤佩刀。伐人事變雲煙。神山長截薛。大息辭寒階。命舟
韓時所納。

積惡酬汝曹。家宰陪奴皆作賊。身且不保像何有。可憐猶得列其側。此亦欲作而未果者。中間歷敘處頗用飲中八儂韻法。唯彼通一韻。此換五次耳。

觀嚴嶋神庫詩并序

八神主

辛卯孟冬十八日。奉母詣嚴嶋。因祠官佐伯子幹。得觀神庫所藏古物。遂命舟同醉歸館。次第二十八韻。以紀即日之事。且以謝子幹。

廟宇駕鼇頭。玲瓏疑乾闥。神庫依絕境。祕藏千古物。海龍所呵護。相戒慎鑰鑰。世守吾所知。黃緣恣覽閱。蕊經平族寫。繭紙字楷栗。晶軸金籤題。銅函卷弃八。標罽錯繪圖。隱謎難辨詰。驕汰均兒女。佞媚憑神佛。威權消雪冰。痕迹存

墨筆。平族所納法華經。每卷引首画。所謂蘆手書者。痛哉養和帝。紉衣蜀錦纈。託胎狼虎家。葬骨蛟鼉窟。獨欽小松公。輕甲遺浴鐵。應擐待賢門。免受壇浦濺。蓋在內府遺甲。世代遞遷移。芳臭駢陳列。仁山納寶刀。桐菊飾其室。憶獲廢皇詔。錦旗遂犯闕。足利至此地。得光嚴詔。乃樹錦旗。東犯。阿隆獻犀鎧。綠縞綴玄札。何知賊刀割。空恃防身密。大內氏所獻甲。最鮮明工緻。更見劍雌雄。鑄具鞞鞞秘。劍首認徽號。三玉冒畫一。江公斃賊時。或淬鯨鯢血。義舉神所右。赫赫如前日。毛利元就雙劍。克陶賊時。獻以賽神。最後一長刀。獻者諱秀吉。一揮掃蜻蜒。再揮指溟渤。鷁首繫廟廊。默禱吞日沒。大閤佩刀。伐人事變雲煙。神山長截薛。大息辭寒階。命舟

廟宇 嚴嶋 神庫 物 八神主 辛卯孟冬十八日 奉母詣嚴嶋 因祠官佐伯子幹 得觀神庫所藏古物 遂命舟同醉歸館 次第二十八韻 以紀即日之事 且以謝子幹 墨筆 平族所納法華經 每卷引首画 所謂蘆手書者 痛哉養和帝 紉衣蜀錦纈 託胎狼虎家 葬骨蛟鼉窟 獨欽小松公 輕甲遺浴鐵 應擐待賢門 免受壇浦濺 蓋在內府遺甲 世代遞遷移 芳臭駢陳列 仁山納寶刀 桐菊飾其室 憶獲廢皇詔 錦旗遂犯闕 足利至此地 得光嚴詔 乃樹錦旗 東犯 阿隆獻犀鎧 綠縞綴玄札 何知賊刀割 空恃防身密 大內氏所獻甲 最鮮明工緻 更見劍雌雄 鑄具鞞鞞秘 劍首認徽號 三玉冒畫一 江公斃賊時 或淬鯨鯢血 義舉神所右 赫赫如前日 毛利元就雙劍 克陶賊時 獻以賽神 最後一長刀 獻者諱秀吉 一揮掃蜻蜒 再揮指溟渤 鷁首繫廟廊 默禱吞日沒 大閤佩刀 伐人事變雲煙 神山長截薛 大息辭寒階 命舟

綠岸樾同醉談今古夕陽金尊凸。

奉母游嚴鳴聞余生甫二歲二親挈之省大父遂詣

此

江城ハ辰ノ縣ニ在リ

幾回歸覲在江城仙鳴唯看黛色橫松漏朝暉沙半濕維

舟今日掖親行

抱我爺娘下海船當時襁負拜龕前白頭母子重來詣存

沒茫茫五十年

承緒東役不在題其齋壁二首

承緒ハ山陽ノ縣ノ

劍書官邸遠霜雪故園淡于役勞君事言歸慰母心談依

東路信酒向北堂斟剝栗還煨芋盤飧弱婦任

于役ハ心ハ辰ノ縣ニ在リ
市ハ辰ノ縣ニ在リ
江ノ邊ニ在リ
コノ方ハ辰ノ縣ニ在リ
心ヲナグサシテスルヲ云フ
談依ハ辰ノ縣ニ在リ

看家ハ辰ノ縣ニ在リ
卸擔方ハ辰ノ縣ニ在リ
書經ハ辰ノ縣ニ在リ
ヲルモ君ハ辰ノ縣ニ在リ

看家留大姪學語長童孫卸擔方虛室安眠信故園書經

見父澤餐飯思君恩

強能ハ辰ノ縣ニ在リ

眼看舊栽樹風驚黃葉繁

強舍行杯拜訣還寧能仰視阿娘顏萬端心緒憑誰語付

與潮聲櫓響聞

富苗スレハ京都ノ城ニ在リ

舟發廣鳴抵尾路三首

同舟有宮原士淵尾路人

齊聲浪激舟行日杳榆隔遙山讚豫橫漁村

初忘下灘古趁白船

差婦子利濟念黔黎

利濟ハ辰ノ縣ニ在リ
差婦子ハ辰ノ縣ニ在リ
利濟念黔黎ハ辰ノ縣ニ在リ

詩 十二

緣岸樾。同醉談今古。夕陽金尊凸。

奉母游嚴鳴聞余生甫二歲二親挈之省大父遂詣

此

幾回歸覲在江城仙鳴唯看黛色橫松漏朝暉沙半濕維

舟今日披親行

抱我爺娘下海船當時襁負拜龕前白頭母子重來詣存

沒茫茫五十年

承緒東役不在題其齋壁二首

承緒山陽人

劍書官邨遠霜雪故園淡于役勞君事言歸慰母心談依

東路信酒向北堂斟剝栗還煨芋盤飧弱婦任

白頭一... 年... 母... 系... 存... 後... 廿... 日...
白頭一... 年... 母... 系... 存... 後... 廿... 日...
白頭一... 年... 母... 系... 存... 後... 廿... 日...
白頭一... 年... 母... 系... 存... 後... 廿... 日...

子役... 市... 江... 心... 母... 談...
子役... 市... 江... 心... 母... 談...
子役... 市... 江... 心... 母... 談...
子役... 市... 江... 心... 母... 談...

看家... 卸... 書... 心... 母... 談...
看家... 卸... 書... 心... 母... 談...
看家... 卸... 書... 心... 母... 談...
看家... 卸... 書... 心... 母... 談...

看家留大姪學語長童孫卸擔方虛室安眠信故園書經

見父澤餐飯思君恩

眼看舊栽樹風驚黃葉繁

強舍行杯拜訣還寧能仰視阿娘顏萬端心緒憑誰語付

與潮聲櫓響聞

舟發廣鳴抵尾路三首

同舟有宮原

士淵尾路人

濟... 舟... 士... 尾... 路... 人...

利濟

利濟... 舟... 士... 尾... 路... 人...

子對... 初... 下... 子... 居... 都...
子對... 初... 下... 子... 居... 都...
子對... 初... 下... 子... 居... 都...
子對... 初... 下... 子... 居... 都...

利濟... 舟... 士... 尾... 路... 人... 贊... 豫... 橫... 漁... 村...

帆力一勝ハ帆モ早クシ潮モヤク流ルニヨテ丁度帆ハ潮ヨリ三カッテ

書手

方知

在知カマ

何ハ宮原子侍ハモヤ在知ハ成テキク伝テモカコノハ

李ノ姉飛心餘皆有三絃歌曲盡聲狀無復可措手

但游戲題目有似費詞又嫌多駢語余今用短用散

雖拙亦或換面ナド中々七日在知ハ

肉ハ歌ハ一絃ヲツテモヒクシクハ首シ江橋テ

記得江橋

魚人彈淚海珠落銜枚

唯聞鐘相觸萬戈鬪亂沙無跡

絲肉既離尋別緒恰如曉

胡弓ヲスド管ヲフシ又歌ヲウケテ

胡弓ハカクキハ丁度手ハ柔物ニク様ニ頭ガナジシテ居テ

胡弓シテトハ丁度聲ガ手ニニギラレテ居テナク様大ナカスル

春聲ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

嘔車ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

左撫ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

三石感懷作拗律

泥乾阪路尚陰氛忍凍輿中手欲數北風吹雨還成雪朝

三

七

三

七

三

七

三

七

三

七

三

七

三

是絲
胡弓ハカクキハ丁度手ハ柔物ニク様ニ頭ガナジシテ居テ

王是
胡弓シテトハ丁度聲ガ手ニニギラレテ居テナク様大ナカスル

蟬在
春聲ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

絃撥
嘔車ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

左撫
ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

春夢
夢モ驚キ覚テシル

記得江橋
魚人彈淚海珠落銜枚

沙無跡
唯聞鐘相觸萬戈鬪亂沙無跡

胡弓ヲスド管ヲフシ又歌ヲウケテ

胡弓ハカクキハ丁度手ハ柔物ニク様ニ頭ガナジシテ居テ

胡弓シテトハ丁度聲ガ手ニニギラレテ居テナク様大ナカスル

春聲ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

嘔車ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

左撫ハハチ一寸ナク知テイカモ情ハ深イトコガアル

三

帆力一勝ハ帆モ早クシ潮モヤク流ルニヨテ丁度帆ハ潮ト三カツヲ
争テユル様ナリ
碧色書物ヲアライフ名ノ中カラ出テヒロクテミルナリ
方知 何ハ宮原子僽ハモヤ在知ハ成テキク云テモ此ガコノ方ハ
在知カス 遠ク成テルガドモ後方カナイ也

春夢 飛鳥
夢モ驚キ覚テル
黄鳥モ起テ去ル

但游戲題目有似費詞又嫌多駢語余今用短用散

絲肉 一弦ヲボツクトイワシテフルニテモトハ丁度暖目ニ砂雨がシタル様大
一弦ヲボツクトイワシテフルニテモトハ丁度暖目ニ砂雨がシタル様大
記得江樓 語ハ今ホツク一弦ヲツテモヒクシクハ昔シ江樓
燈モヒヤカニ成テ酒モサツタ知テ歌モ唐年セズボツクハ絲語ヲツ
ヤカ丁度モ様大ヲカスル也

御杖 一弦ハ今ホツク一弦ヲツテモヒクシクハ昔シ江樓
沙無跡 三弦ノヤカキヲトヌタノモナリ

唯聞鐘相觸萬戈鬪亂沙無跡。絲肉既離尋別緒恰如曉

是絲 一弦ヲボツクトイワシテフルニテモトハ丁度暖目ニ砂雨がシタル様大
玉匙 胡弓ノカタチハ丁度玉ノ糸物ニク様ニ頭ガナジニ居テ
蟬在 シタンハハラジヤ也
春柳 一弦ハ今ホツク一弦ヲツテモヒクシクハ昔シ江樓
絃撥 一弦ハ今ホツク一弦ヲツテモヒクシクハ昔シ江樓
嘔車 一弦ハ今ホツク一弦ヲツテモヒクシクハ昔シ江樓
左撫 一弦ハ今ホツク一弦ヲツテモヒクシクハ昔シ江樓

三石感懷作拗律

泥乾阪路尚陰氛忍凍輿中手欲數北風吹雨還成雪朝

山陽先生遺稿卷六 詩 十三

帆力潮爭勝。船頭山亂過。吾行不寂寞。汝在同吟哦。書卷囊繙碧。匏尊面共配。方知近家喜。奈遠我鄉何。

戲作三絃詞并序

李竹嬾。蔣心餘。皆有^三絃歌曲。盡聲狀。無復可措手。但游戲題目。有似費詞。又嫌多駢語。余今用短用散。雖拙。亦或換面。辛卯仲冬七日。在元吉別莊。出家姬佐酒。縱談及此。元吉欲我作一歌。即夜酒罷不寐。就枕頭成之。

誰把琵琶斷一絲。織女急梭天機窄。鮫人彈淚海珠落。銜枚起黃鶯帶聲飛。織女急梭天機窄。鮫人彈淚海珠落。銜枚

續指撥 婦人細手云云 春夢將驚夢中語 打 起黃鶯帶聲飛 織女急梭天機窄 鮫人彈淚海珠落 銜枚

唯聞鏡相觸。萬戈鬪亂沙無跡。絲肉既離尋別緒。恰如曉風滴殘雨。記得江樓燈冷酒醒處。不辨肉聲聞絲語。

胡弓詞

弦挂毳毼是何弓。弓代象撥生別腔。文姬瑟觸胡馬尾。不在十八拍調中。是絲如竹又如肉。玉匙頭蹙紫檀腹。蟬在手中悶猶嘶。春蚓出蟄聲透泥。絃撥相避互有情。嘔軋欲奪歌喉傾。誰知阿瞞持弓或右手。左撚羽箭作鴟鳴。蘇詩。別駕眼如電。左手挂弓橫。羽箭作鴟鳴。潞州。撚箭明皇像。有如此者云。胡弓。胡弓。

三石感懷作拗律

泥乾阪路尚陰氛。忍凍輿中手欲皸。北風吹雨還成雪。朝

文姬 中 胡 弓 詞 胡 弓 詞 胡 弓 詞 胡 弓 詞

兵部

シサ建武年中三備後三見崎高乾が後醍醐天王の身万

忠孝

見崎高乾八君之忠孝親之孝公ユヘミ大ドラ人モ高乾クマ

熊峰

シ熊山ニシテ後必イガ隠岐ニ流テ出シ高乾が後必イ

テ

テ岳テ輝政ノ視ヲヒキ馬ヲ叩テイサメテソラ大山ノ方ヘモドラシテシマツタヨテ

食

也田金作肉食ノ也歴主ヘモソ法則ヲツクテテヲリハセ又法則

丁夫

顔ハカワイシ人足カ白首死クユラテマツ朝ニニ一

四體

コノ方ハ耕作ニ付テハ子モカラクテ勞スセズニナルガ併

手教

白平シテ沢山ニトラシテヤツテ百姓ニ功ヲ博セテヤクイハ心何

三レハ

三レハ魚ヲトル山多ガ水ヲコシテシイカテアツク云フ

看争魚鷺鷥飛

題畫

コノ後ニ白ハ格別上手ニミルヤ

睡鴨夢難成寒江冰鎖水數振雙翼雪片片來不止

又

トニコラノ、秋ガコボシテ又レルコトモヨキヲアルト

暑行方卸鞍呼僕飲吾馬渴吻赴槽泉噴珠亂自灑

松檟

茂シ松モ退シシク成テキタリトニスナハナ子何不書

愧辱

長ハマコトニコノ方ヲネクテ下室ナルアシラ在シテクシレルニ実

無酬

長ガシテ情ヲムルモテキシ云フナト書シテ又タケルコト

吾心

白水丈夫が江戸留ちニテアヘシク又ウレヘルナ

散振
馬がハルエハハハハ
方ハハハハハハハ
名ハハハハハハハ
毛ハハハハハハハ
カハハハハハハハ
水ハハハハハハハ
トハハハハハハハ

山陽元三貴書卷六

兵勢
 忠孝
 熊峰

シヤ建武年中ニ備後三郡見崎高乾が後醍醐天王の御方
 マシタリハマコトニ今ニ至ルマテ分明ニシテアル也
 忠孝ノ見崎高乾ノ君モ忠孝ノ親ノモ孝公ニシテ大ドラノ人モ高乾ノ子
 ヨクシツテアル
 熊峰ノ見崎高乾ノ子ニテ後公ノ御方ニシテ高乾ノ御方
 以テシテアルトシテコトナリ

食
 丁夫
 四體

ニ番タカノ姓名ハ今ハ至ルマテ不明ニシテアル也
 亦シ未孫ハコトツテアルヤ大モコトナリ
 也田ノ全作肉食ノ也
 川ノ方カラ娘ヲモラツテ夫コシウトニナツクシテアル

看争魚鷺鷥飛
 題畫
 睡鴨夢難成 寒江冰鎖水 數振雙翼雪 片片來不止

又
 トニコトナリハ亦ガコボレテ又レルトシテコレモヨキナリ
 又
 トニコトナリハ亦ガコボレテ又レルトシテコレモヨキナリ

看争魚鷺鷥飛
 題畫
 睡鴨夢難成 寒江冰鎖水 數振雙翼雪 片片來不止

又
 トニコトナリハ亦ガコボレテ又レルトシテコレモヨキナリ
 又
 トニコトナリハ亦ガコボレテ又レルトシテコレモヨキナリ

松標
 愧辱
 無
 吾心

茂シハ松モ退シテク成テキタリ
 生ガ也生シタリ
 等君美シハ君候ノ食物トヒツクムル
 愧辱ノ事ハコトニコトナリテ
 無ノ事ハコトニコトナリテ
 吾心ノ事ハコトニコトナリテ

亮誠研精喜此芝蘭長堪期緒業成父風能下士子胄卜
安眠恐眩裘昔說難任柱石擊於經識大者其事殊諸生
他日贊長策及今親短檠詩書養根本橋梓疊滋榮質向
歸旗日當知此語誠

山校與菅野高橋二子夜坐コノ詩モゴトニハギツク
モノジヤラタレ云

講帷客漸散相留共燈燭夜闌更煮茗波濤起鼎腹英髦
豈無多不若故交熟細談廿年前其事在心目趨庭教同
受御車游追逐老成久已逝我髮亦各白相勉追典刑心
長歲月蹙シテ示同ク效モウケタリ又カ務ビニ出ルハ
之ハ車ヲス御シテツイテイツタレモアル

入攝

英髦 熟
山陽 菅野 高橋
阿比 菅野 高橋
高橋 菅野 高橋
高橋 菅野 高橋

西列 西花守レキラ人三六一谷ノ戦死タ人ナリ

生理 谷ノ

凍雨連南海寒雲失攝山如何歲月暮猶在道途閒生理
老妻手別愁慈母顏泥淡武州墓下輪淚潛潛

又

念家寧憚路程脩還到山陽欲盡頭嶺雪遙明河內地人
煙漸密攝津州市聲忙覺窮陰日米價低知列國秋老母
在鄉兒在役歸來吾未廢閑愁

到坂晤承弼

未見妻兒面覲君同此歡到家隔一夕來書審平安信宿
盡咲語奴婢皆慣看開囊出吟草蕪穢借芟刪獨雄伴群
雌何以鞭駑頑與君相切劘垂老猶革顏末執何必說道

信宿 八面 二日 留
蕪穢 借 芟 刪
雌 何以 鞭 駑 頑
末 執 何必 說道

義夙所難

到京フチモヨキ

喜到ハレハサテ楊柳アル茶屋ニテキタスカキニル情ハ也イニキテ

博遊書ハサテ今マテテキタハシレハナガイ格ナツモテモナイガ

飄蕩情ハ大イニヒテクル格ニ成カシテニルト大分長キ一

題畫雲煙瀟勃初收雨水墨清華未歷霜一派墨心傳那處依

題畫

雲煙瀟勃初收雨水墨清華未歷霜一派墨心傳那處依

稀當日老香光

海鼠腸海鼠腸ハギンヲ

一派光シ光シセテソノ
墨心傳那處依
フ子知天傳天ヤツ
タモトイハ香
光先生月天用
テヤツモトイ

留得長長ハギキハ唐シシ方ハヤツテモ九回ハラワタハコニ留テハルヨテソテ
鼠腸天邊シテヤ
多件トイハ香
作テヤラシタ詩ナ

無牙萬鼠還生翼聲價飛騰去向唐雷得九迴腸在此一

迴併得一杯長

送合公西歸二首

吾還君往奈君何熟路佳期千里差記取秦州霜曉處與

君停驂折梅花佳期ハタツテシマシトイハス

院自花花ハハサテ君何熟路佳期千里差記取秦州霜曉處與
自梅花到菊花
自梅花到菊花

贛齋小飲時春琴新歸自越分得山字

梅花映酒燭光闌談咲逢君自北還臘雪壓檐天若墨茫

茫何處越中山

義夙所難

到京ヲモヨキ

夜乘浪華船，朝著伏水磯。寒日破朝霧，郊樹塔參差。廿年寄家室，自忘是天涯。旬前發書報，歸期家豫知。喜到楊柳店，來迎九齡兒。薄遊今幾日，髻髮已垂垂。憶我如渠年，迎爺自役歸。飄蕩不報德，西望長歎唏。

題畫

雲煙滟勃初收雨，水墨清華未歷霜。一派墨心傳那處，依稀當日老香光。

海鼠腸海鼠腸ハギキヲ

一派——先シテコノ里生ニ用イタカハトフ子如ク天信ニヤツタモノトイハル香光先生生シ月天用イタヤツタモノトイハル無牙——唐シハキバムナイ子ズニカヘツテ翼ヲ生シテソラニシラレルコトヲ云

留得——長シクハギキニハ唐シシコトハヤツテモ九回ハシラワタハコニ留テアルヨソコトハ風騰ヲ生シテヤツ件ニヤツタモノトイハル作テヤツタモノトイハル

無牙萬鼠還生翼，聲價飛騰去向唐。留得九迴腸在此，一迴併得一杯長。

送舍公西歸二首

吾還君往奈君何，熟路佳期千里差。記取秦州霜曉處，與君停轎折梅花。佳期カタカツテシマツテヤツ

一日三秋更奈何，囁君莫使後期差。從今節物誰俱看，閱自梅花到菊花。度カハル期ヌマナカヘン梅ニハツテス

贛齋小飲時春琴新歸自越分得山字

梅花映酒燭光闌，談咲逢君自北還。臘雪壓檐天若墨，茫茫何處越中山。

就路——差シクハ大舍所下一節ニ出掛ル、梅ニモキツル第ケレモ、コノ方カ帰テカス、大舍所カ生掛リヤニヨテコトト

齋河村

瓜代期來汝未還，可憐回首路漫漫。晚歸每怕鐵門限，夜飲何看銀燭乾。官牒下時名字杳，家書到處夢魂安。寄與熟衣吾有意，岳雪滿城增暮寒。

○與河村士郁別佳詩也

餘興牽君過小齋，呼燈吹火看瓶梅。本欲醉中分手去，卻從茶後喚愁來。テモタタカシク、茶ヲノミテ、醉カサシメ、マツタユヘソコテ、兼後ヨリ、愁ヲヨビキル、格下モナク

齋藤實盛

委質新恩襲賜衣，送頭舊部變衰姿。星星雪鬢能還黑，難奈冰心豈不縑。

題竹田畫為其男太一太一遠遊久不歸

飲討平氏向源平之我書、監請錦衣計、忠我死

鳴鶴——雌雄——湖雲——

老梅蟠屈亞疎枝，鳴鶴在陰雄與雌。應望孤雛游未返，湖雲春水影迷離。

題畫

潭水生雲氣，前峯半有無。暫休溪樹底，愛看雨跳珠。

○瑞香コレモ好詩也

瑞香花發對前除，置酒清宵意有餘。微醉唯聞香滿地，花和月影兩模糊。

壽瀧原翁六十賦得松契遐齡

穉松已作龍鱗老，采藥方逢華甲周。醉向翠陰高枕臥，濤聲終日和齣齣。松下ニテ、采藥ガドレル、松ニ成ス、一、年甲ハ

穉松——松モハニ長シテ、年六

雄與雌竹田三親

下江過高槻訪藤井強哉

○下江過高槻訪藤井強哉

環塔回竹色

朝

鯉魚

酒醒湖樓便上船
殘星半落曉無雲
江城回首真如畫
不憶玄暉卻憶君

酒醒湖樓便上船
殘星半落曉無雲
江城回首真如畫
不憶玄暉卻憶君

憶玄暉卻憶君

舟中作

平湖萬頃是琵琶
一幅蒲帆翦綠波
他日匙頭幾經涉
如今槽腹闊邊過

今槽腹闊邊過

望彦根懷舜卿

認得江城似畫圖
促搖雙櫓度長湖
洋洋什倍黃河水
我舜華好在無

維舟薩摩村訪中川祿郎

湖岸認君宅
日晡維我船
階除迎莞爾
花竹亦欣然
玉屑膾鮮鯉
銀絲羹嫩蓴
交情何所似
戶外水如天

○又

卷心未展芭蕉葉
重瓣方開芍藥花
更有廚中蠶豆飯
清和時節宿君家

詩

三

認得江城似畫圖... 促搖雙櫓度長湖... 洋洋什倍黃河水... 我舜華好在無... 維舟薩摩村訪中川祿郎... 湖岸認君宅... 日晡維我船... 階除迎莞爾... 花竹亦欣然... 玉屑膾鮮鯉... 銀絲羹嫩蓴... 交情何所似... 戶外水如天... ○又... 卷心未展芭蕉葉... 重瓣方開芍藥花... 更有廚中蠶豆飯... 清和時節宿君家

他日... 舟中作... 平湖萬頃是琵琶... 一幅蒲帆翦綠波... 他日匙頭幾經涉... 如今槽腹闊邊過

朝... 鯉魚... 酒醒湖樓便上船... 殘星半落曉無雲... 江城回首真如畫... 不憶玄暉卻憶君

下江過高槻訪藤井強哉

下江過高槻訪藤井強哉
下江高槻之詩
雅七律至妙此詩
天熱しせし出ず
テキクモ

○下江過高槻訪藤井強哉

舍艇尋朋漢水陽夜穿城樹到君堂環墻竹色借官綠栽
圃菊苗分野黃耽趣朝參休說懶偷閑書味故應長鯉魚
肥大蓴絲嫩侷醉將忘上去航

壬辰五月八日赴彦根田舜卿之招信侯送至大津

翌早分手

酒醒湖樓便上船殘星半落曉無雲江城回首真如畫不

憶玄暉卻憶君

舟中作

平湖萬頃是琵琶一幅蒲帆翦綠波他日匙頭幾經涉如

不憶一君し使人
思玄暉ハ外田舜
卿ハシカラヨリテ
ヨリソレホド三憶イ
ハセシケレ氏信彦根
ハマアトコニテワカシ
ナラヌユハコシカス
他日一過
ハ同琵琶湖ナレハ
今マテハ中しセマイ知
斗ハハツテ了
度琵琶云ト頭ハ
スキワツタニクハ
認得

今槽腹闊邊過

望彦根懷舜卿

認得江城似畫圖促搖雙櫓度長湖洋洋什倍黃河水
我舜華好在無

維舟薩摩村訪中川祿郎

湖岸認君宅日晡維我船階除迎莞爾花竹亦欣然玉屑
膾鮮鯉銀絲羹嫩蓴交情何所似戶外水如天

○又

卷心未展芭蕉葉重瓣方開芍藥花更有廚中蠶豆飯清
和時節宿君家

認得
分カウニ方ニ由ニ
夕格ニミハルカ
天彦根ハ城下ニ
伴一ハ水カラス
昔ハ河ニ水カラス
什倍モフカイ
天田舜卿ハコ
コノ湖水ハ情
交情ハ如天
如何ハ似
云ハ君子
天丁度天
ヤハ大モ
卷心
葉ハ心
マタハ心
重瓣
ヒラナル者

山陽先生遺稿卷七

原 蘇多ハ蕭何... 有今コト先祖井伊氏... 根カマアソ...

鷗盟 墨韻呈舜郎

強 田舜卿江カラス... 廟堂... 菊...

湖魚主人多情謀娛客... 獨牽襲美伴老陸...

湖魚主人多情謀娛客... 獨牽襲美伴老陸... 畫日...

湖魚主人多情謀娛客... 獨牽襲美伴老陸... 畫日... 又...

我東軒所指山... 倒影湖城落碧灣... 隔湖諸嶺夕霞間...

用茶翁舊題詩韻... 柔櫓遙追倦鳥飛... 外湖遊罷裏湖歸...

看江城帶落暉

泛舟金龜山下升佐和墟作歌

詩 四

彦根

佳詩、○四疆、彦根城下、四方カラ魚モドレルニ承穀モ

雄藩形勢控湖關、有客觀光一往還、積水橫包畿內地、浮

雲斜指越前山、四疆魚稻豐饒處、百雉城樓縹緲間、難獲

鄩戾兼戰績、渠魁廢址不違顏、百雉ニ多根城、周敷カヒロイ

壘韻呈舜卿

鷗盟鵝列兩心關、來及干旌賜告還、重訂交情淡於水、強

形勝

凡景、ヨキ湖水カ襟ヲヒライタコトニ

四直醜

者ヲ招ケルコトニテ、角カコノ方ヲ請待シタ

上、山ヲミテフルバ、カクシヤル

裏湖ハ彦根城中、湖水

湖魚、主人多情謀娛客、獨牽襲美伴、老陸盡日茶竈對筆

牀、欲詠漁具才不副、竹蕪荻籬殘、照紫昨遊村落阿、那是

黃昏入城水煙閒、傳呼津吏啓水關、

又

倒影湖城落碧灣、隔湖諸嶺夕霞閒、最遙一點如螺髻、是

我東軒所指山、

用茶翁舊題詩韻

柔櫓遙追倦鳥飛、外湖遊罷裏湖歸、題詩輸與茶翁好、空

看江城帶落暉、

泛舟金龜山下、升佐和墟作歌

彦根

佳詩、○四疆、彦根城下、四方カラ魚モドレルニ承穀モ

雄藩形勢控湖關、有客觀光一往還、積水橫包畿內地、浮

雲斜指越前山、四疆魚稻豐饒處、百雉城樓縹緲間、難獲

鄴侯兼戰績、渠魁廢址不違顏、百雉、彦根城、圍數カヒロイ

壘韻呈舜卿

○壘、詞、淡、不、云、シ、ライ、ト、

鷗盟鵝列兩心關、來及干旌賜告還、重訂交情淡於水、強

排簿領積如山、廟堂籌策繭絲外、形勝江湖襟帶間、置醴

何能補分寸、日支醉頰對孱顏

同梁星岳泛遊舜卿之舉也

コノ詩ハ格別ナルモノナハ、ナイト

昨日遊外湖、今日遊裏湖、兩湖夾城放舟好、時棹柳根斫

裏湖ハ彦根城中、湖水、イ、コシ、ナル

湖魚、主人多情謀娛客、獨牽襲美伴老陸、盡日茶竈對筆

牀、欲詠漁具才不副、竹蕪荻籬殘照紫、昨遊村落阿那是

黃昏入城水煙閒、傳呼津吏啓水關、

又

倒影湖城落碧灣、隔湖諸嶺夕霞閒、最遙一點如螺髻、是

我東軒所指山、

用茶翁舊題詩韻

コレハ湖中、此三ノ字、カ、ケ、チ、ア、テ、ソ、ク、見、テ、ツ、ク、ラ、レ、タ、詩、ニ、テ、可

柔櫓遙追倦鳥飛、外湖遊罷裏湖歸、題詩輸與茶翁好、空

看江城帶落暉、

泛舟金龜山下升佐和墟作歌

泛舟金龜山下升、佐和墟作歌

雄藩 根城大船若手
キチ地ニ築テラシ
テ湖行ヲヒカテテ
百容 彦根一帯
自カシラニ天國ニ
精兵 葉雨何ヤ
子ヲカテラテ根
田舎側ニ格ニテテ

鷗盟 鷗盟
着列ニ同シテ
下ノ列ニテツキヤ
カヒツキヤイナル
トヲ云テ

時棹 魚柳根
舟ヲツクテテ、イ、テ、ソ
フニテ、舟中ニ居テ
湖魚ヲ釣テ、レ、ル
トヲ云テ

畫日 陸毎毎
皮日体ヤ陸毎毎
格オカナイニ、僕
ルモ、イ、ノ、ヲ、ツ、ク、ニ、ツ
ク、コ、フ、テ、モ、テ、モ、ト、ク
モ、オ、カ、カ、ナ、ユ、ニ、カ、オ

東軒 彦根川ハ
江ノ少陽ニカク

柔櫓 彦根川ハ
カモトノ、彦根、カ、ル、ヤ
ウチ、モ、ク

金龜起金龜大湖水居山城...

近山越越若若若若若若若...

動若若若若若若若若若...

東指指指指指指指指指...

十日雷歡跡已陳連漪落照對孤斟一瓢猶是君家酒萬

尺清湖送我心萬尺清湖一作湖水何如

舵牙不見金龜山別恨茫茫櫓響閒一葦京城非遠別愁

泊於幾隄

避風入湖壘繫舟蔭林樾數家依厓住汲路泥常滑上岸

借一枕舟中苦蚊齧浹句滯藩城紗帳申估畢不如漁父

家漁燈緜吾帙

堅田晴晴晴晴晴晴晴晴晴...

麥畝漁莊隔岸呼晴波一束似葫蘆平生漫讀天正記始

信濃軍飛渡湖都都都都都都都都都...

歸舟口占時是月二十日也

大叡小叡宿雲閒群仙曉未整煙鬟朝烟褪處菱花現始

後舟金龜山什伍... 十日... 舵牙... 泊於幾隄... 避風入湖... 借一枕舟中... 家漁燈緜吾帙... 堅田... 麥畝漁莊... 信濃軍飛渡湖... 歸舟口占... 大叡小叡...

對
 牙ハ金龜山下向テ居テ山ノ向テ池カ尻テク斗
 山ノ今イタルニケハシキ險阻ナリ
 大公望シテ太田石田ニ成リテキタリ丁度段紂王ガ屬来ニテ人ヲ多ク
 格ナモ人徳ハ公カ丹伊氏ナドヌキタリ丁度周武王ガ太公望ヲ生ク格ナ
 モノニテヨリテ人ノ屬要キ石田ニ成リテ熊罴ヲコトキ丹伊氏ガ石田
 ヲテ山ニアルニ成リテ城ヲ重キ也山ノキテキテタナフニシテ丹伊氏ガ石田
 龍幸ニテタタシタリテ格ナモノモ丹伊氏ニシテ格ナモノモトハヨ美人
 龍幸ニテタタシタリテ格ナモノモ丹伊氏ニシテ格ナモノモトハヨ美人

十日留歡跡已陳
 漣漪落照對孤斟
 一瓢猶是君家酒
 萬尺清湖送我心
 作湖水何如一
 挖牙不見金龜山
 別恨茫茫櫓響閒
 一葦京城非遠別
 愁

コレカスマタ舞舞 御ガ江ノ方ニユカレド 蘇連ユノシラウレル
 関ノ彦根ト京都トハ寸モ隔テヨリハセニヨテ格別 ドヲモワカレテモナイガ
 柁牙ハ山ノ向テ居テ山ノ向テ池カ尻テク斗
 山ノ今イタルニケハシキ險阻ナリ

速旬 畢
 十日餘 毛
 湖 呼
 麥 呼
 信 呼
 大 呼

君移跡向東關
 泊於幾陽
 避風入湖 櫓繫舟 蔭林 樾數家 依厓住 汲路泥常滑 上岸
 借一枕舟中 苦蚊齧 浹旬滯 藩城紗帳 申估畢 不如漁父
 家漁燈 緜吾帙
 堅田 晴波 一東似 葫蘆 平生漫讀天正記 始
 麥畝 漁莊 隔岸呼 晴波 一束似 葫蘆 平生漫讀天正記 始
 信濃 軍飛渡湖 都ノコトヲコトシテモ思ハレテ今ハ堅田ハ
 歸舟口 占時是月二十日也
 大叡 小叡 宿雲閒 群仙曉未整 煙鬟 朝烟褪處 菱花現 始

天賜
短狐
相
吾甲
湖

十日留勸跡已陳
漣漪落照對孤斟
一瓢猶是君家酒
萬尺清湖送我心
作湖水何如
柁牙不見金龜山
別恨茫茫櫓響閒
一葦京城非遠別
愁

コレカスマタ... 御が江... 柁牙... 十日... 萬尺... 作湖水何如... 柁牙不見金龜山... 別恨茫茫櫓響閒... 一葦京城非遠別... 愁

君移跡向東關

泊於幾鴉

避風入湖舉繫舟
蔭林樾數家
依厓住汲路泥常滑
上岸

借一枕舟中苦蚊齧
浹旬滯藩城
紗帳申估畢不如漁父

家漁燈繙吾帙

堅田

麥畝漁莊隔岸呼
晴波一束似葫蘆
平生漫讀天正記
始

信濃軍飛渡湖

歸舟口占時是月二十日也

大叡小叡宿雲閒
群仙曉未整煙鬟
朝烟褪處菱花現
始

漢句... 十日... 萬尺... 作湖水何如... 柁牙... 別恨茫茫櫓響閒... 一葦京城非遠別... 愁

後舟在名山仕佐
和城之詩
山陽先生遺稿卷七
知佐和城
城下竹葉
如詩
出才
仙

金龜曳尾太湖水，背負層城百雉起。越山若山倒影來，漕帆直到萬家市。勳舊藩維功第一，庚子之事策誰決。東指膽岳雲蒼莽，關原在彼事可說。對峙一墟隔清波，渠魁所窟猶哈呀。康惠熊羆互相代，寵幸起跡卻同科。天賜國材各因類，短狐寧敵赤夜叉。想見入封整鎧仗，戰血未乾蒸腥霞。吾甲在心赤更赤，湖波映出太平色。

舜卿裝舟送我二首

十日雷歡跡已陳，漣漪落照對孤斟。一瓢猶是君家酒，萬尺清湖送我心。
萬尺清湖一作湖水何如
柁牙不見金龜山，別恨茫茫櫓響聞。一葦京城非遠別，愁

十日雷歡跡已陳
漣漪落照對孤斟
一瓢猶是君家酒
萬尺清湖送我心
柁牙不見金龜山
別恨茫茫櫓響聞
一葦京城非遠別
愁

君移跡向東關

泊於幾鴻

避風入湖，舉繫舟蔭林樾。數家依厓住，汲路泥常滑。上岸借一枕，舟中苦蚊齧。浹旬滯藩城，紗帳申估畢。不如漁父家，漁燈繙吾帙。

堅田

麥畝漁莊隔岸呼，晴波一束似葫蘆。平生漫讀天正記，始信濃軍飛渡湖。

歸舟口占時是月二十日也

大叡小叡宿雲閒，群仙曉未整煙鬟。朝烟褪處菱花現，始

十日雷歡跡已陳
漣漪落照對孤斟
一瓢猶是君家酒
萬尺清湖送我心
柁牙不見金龜山
別恨茫茫櫓響聞
一葦京城非遠別
愁

朝... 現... 湖...

不能... 血... 天...

見湖南舊識山

到家

薄游十日到吾廬新笋成筠荷葉舒命酒綠陰呼婦子著
包半脫出湖魚一作小荷展葉笋成筠偶爾離家已浹旬命酒綠陰呼婦子著包半脫出湖鱗

患亥血戲作次

或曰先生... 陰... 血... 天... 吾廬... 童子... 先生... 字...

得... 伊丹... 酒... 先生... 童子... 先生... 字...

吐... 說... 格... 又...

翦來兩朵白蓮花白照黃昏玉無瑕穿盡九街香不散
將月色到吾家

寄懷士錦在江戶
桑梓擔憂獨遠征况逢早魃正三庚幾旬桂玉依人熱滿
地沙塵逐馬聲久望月從星有驗無如天與水違行括囊

朝... 現... 湖...

血... 不... 威...

見湖南舊識山

到家

薄游十日到吾廬新笋成筠荷葉舒命酒綠陰呼婦子
包半脫出湖魚一作小荷展葉笋成筠偶爾離家已浹
患咳血戲作歌

患咳血戲作歌

或曰先生... 血... 吾廬... 童子... 先生... 字...

得... 伊丹... 酒... 載... 先生... 賦... 山... 天... 福... 中... 膳... 成... 物... 善... 右... 山... 陽... 大... 立... 船... 子... 格... 大... 三... 善... 又... 大... 三... 善... 又...

將月色到吾家

將月色到吾家

寄懷士錦在江戶

桑梓擔憂獨遠征况逢早魃正三庚幾旬桂玉依人熱滿
地沙塵逐馬聲久望月從星有驗無如天與水違行括囊

朝相 現世
花の影...
朝相 現世
花の影...

見湖南舊識山

山陽先生遺稿卷七
見湖南舊識山

到家

詩 句 可知

薄游十日到吾廬
新笋成筠荷葉舒
命酒綠陰呼婦子
箬包半脫出湖魚
一作小荷展葉笋成筠偶爾離家已決

患咳血戲作歌

吾有一腔血其色正赤其性熱不能瀝之明主前
赤光燦向廟堂徹又不能濺之國家難
雷痕大地碧弗滅鬱積徒成磊塊凝欲吐不吐中逾熱
一旦喀出學李賀難收糝地

不能瀝之明主前
赤光燦向廟堂徹
又不能濺之國家難
雷痕大地碧弗滅
鬱積徒成磊塊凝
欲吐不吐中逾熱
一旦喀出學李賀
難收糝地

滿地

滿地 士錦 公事
ヤウノ人ヲ...
久望 月...
度...
名如...
括...
テ彼...
マ眼...

久望 月...
度...
名如...
括...
テ彼...
マ眼...

藏府受不起溢為赤漿戒饕餮吐哉此意慎勿說

喜士海攜贈荷花

翦來兩朵白蓮花
白照黃昏玉無瑕
穿盡九街香不散
併將月色到吾家

寄懷士錦在江戶

桑梓擔憂獨遠征
况逢旱魃正三庚
幾旬桂玉依人熱
滿地沙塵逐馬聲
久望月從星有驗
無如天與水違行
括囊

寄懷士錦在江戶
詩 九 詩 六
三 格 別 九 詩 六
錦 村 江 戶
公 事
公 事
公 事

朝相 現世

不能 微分

血 明主

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

血 國

又 不能

見湖南舊識山

到家 詩 不可知

薄游十日到吾廬新笋成筠荷葉舒命酒絲陰呼婦子 箬包半脫出湖魚 一作小荷展葉笋成筠偶爾離家已決 旬命酒絲陰呼婦子箬包半脫出湖鱗

患咳血戲作歌

吾有一腔血其色正赤其性熱不能瀝之明主前赤光燦 向唐堂徹又不能灑之國家難留痕大地碧弗滅鬱積徒 成磊塊凝欲吐不吐中逾熱一旦喀出學李賀難收糝地 紅玉屑或曰先生閱史遭姦雄道天罰睢陽之齒輒嚼齧 渠無寸傷已自殘憤懣遂致肺肝裂或曰先生殺人手無

鍊發奸摘伏由筆古以心誅心人不知靈臺冥冥瀦陰血 吾聞此語兩未領童子進曰走意別先生肉中本無血腹 中奇字僅可剗賺得杜康爭載酒劍菱如劍岳雪雪大福 藏府受不起溢為赤漿戒饕餮吐哉此意慎勿說

喜士海攜贈荷花

翦來兩朵白蓮花白照黃昏玉無瑕穿盡九街香不散 將月色到吾家

寄懷士錦在江戶

桑梓擔憂獨遠征况逢旱魃正三庚幾旬桂玉依人熱滿 地沙塵逐馬聲久望月從星有驗無如天與水違行括囊

周年何所就自知絃誦讓耘耕

テ耕作又ス事ニカテシマウガヨイ思フ

遊嵐山

香風滿袖入城來背指西山暖雪堆折去一枝插雲鬢使人知道看花回

與木村雀卿看月於聖護林時雀卿將西歸

山影微茫簷際橫松聲蟲語管離情勿忘秋半同為客聖

護林中看月明

遊北濃

秋溪水落見溪身老柏高楓映石皴兩個渡航小於葉前舟載犢後舟人

郡上之詩岐城シヨノ如ク岐城ニテ上ノ有知シカゴイセシ氏
上有知ハシホドニキヨテヨラヌ如ク岐城ト云々モナク

郡上

貪勝深尋三楚州岐城路折沂溪流民田壘石常防鹿官
道亭輿頰辟牛巧築市郵衣絕壑平分桑者種高峙北風

看月如カナイニテシハ四面ニ有カライテア是ノチモ地ニ梅ノ影ヲ
荆棘ハ里ニ梅ノ影ヲ看ク月ノ如クカナイニテシハ四面ニ有カライテア是ノチモ地ニ梅ノ影ヲ
荆棘ハ里ニ梅ノ影ヲ看ク月ノ如クカナイニテシハ四面ニ有カライテア是ノチモ地ニ梅ノ影ヲ

新編夷怡谷人

長嶋侯墨梅四面皆名士題語索至於余

落墨花邊爭著詩銀鈎鐵畫繞冰肌看來無地容疎影荆
棘叢中玉一枝

及里工一し中
後加里ミテ多
ヲハカシクスミナ
備之自ハ争シ合
竹ヲミミニカク
銀鈎一し銀鈎
銅畫后字一畫

周年何所就自知耕絃誦讓耘耕テ耕作又スル事カカテシマウガヨイと思フ

遊嵐山

香風滿袖入城來背指西山暖雪堆折去一枝插雲鬢使人知道看花回

與木村雀卿看月於聖護林時雀卿將西歸

山影微茫簷際橫松聲蟲語管離情勿忘秋半同為客聖

護林中看月明

遊北濃

秋溪水落見溪身老柏高楓映石皴兩個渡航小於葉前舟載犢後舟人

郡上之詩岐城シヨノ如ク岐城ニテ上ノ有知シカゴイケシ尺上有知ハシレドモキコテヨラヌ如ク岐城ト云々モ

郡上

貪勝深尋三楚州岐城路折沂溪流民田壘石常防鹿官道停輿頻避牛巧築市鄜依絕壑平分桑楮種高疇北風時送白山雪雪蔽晴空來屋頭

歸由舟路

來時重繭度嶙峋歸就舟程岐阜津短艣楸頭蓬一尺積薪缺處恰容人

長鳴戾墨梅四面皆名士題語索至於余佳詩也

落墨花邊爭著詩銀鈎鐵畫繞冰肌看來無地容疎影荆棘叢中玉一枝カアテ、キ、格、ナ、書、三、カ、イ、ハ、字、カ、墨、梅、ハ、四、方、ヲ、シ、ク、テ、

及里工一し中し
後が里まみ多
ヲアハシタスミナ外
傳る百ハ年と合天
竹ヲ多むニカソ
銀鈎一し銀鈎
鐘畫后字し畫

重繭し脚ニシ
ニキル

桑楮種高疇
白山北國

松市一し尺松
赤ヤ虫語ヲキク
心ヲトニマス
ハカタテナル

自
知
耕
田
如
何
所
就
自
知
絃
誦
讓
耘
耕
テ
耕
作
又
ス
ル
事
カ
カ
テ
シ
マ
ウ
ガ
ヨ
イ
ト
思
フ

庭櫻盛開招景文伯舉元瑞

依微新月浸春莎
置酒前除夜不譁
坐久前庭樹陰轉
呼

題岸越前介梅花

老岸作老梅
老氣逼人來
雖無穠艷態
自為百花魁

關羽圖

漢水樓船氣勢豪
何圖肘腋起風濤
恨君不盡屠吳狗
負

題富山圖

頽然戴白一峯高
群嶺欹冠又拂髦
知是丈人開壽宴
當

將東海釀葡萄

一卷龍韜澗粉香
登樓不必望垂楊
細腰未慣桃花馬
唯

禱東風便阿郎

同景文伯舉賞月湖上

群峯鬢髻簇青螺
幾樣魁粧嬌態多
忽被蒼烟抹殺了
碧

題大舍師墨蘭

磁斗曾栽玉幾莖
客窻風雨每關情
輸君囊裡一螺墨
密

葉疎花隨處生

密葉疎花自由自在
自由自在自由自在

山陽先生遺稿合遺

詩

三

卷一 周瑜
將東海釀葡萄
小喬
同景文伯舉賞月湖上
題大舍師墨蘭
葉疎花隨處生

山陽先生遺稿合遺
題富山圖
關羽圖
老岸作老梅
依微新月浸春莎

丹青元彩色か
紙春勝圖

紙春勝圖
紙春勝圖
紙春勝圖

大内亭レ大裡
漁市依沙大内亭

博臺帶歌謝松永子登惠帶

機聲扎扎夾街鳴博臺織帶舊聞名

排素線驚皓明一跨萬錢非虛價

見神后分婉此返旆誤向海中遺

萬松紫沙煙掩藹依樣創工宜

為美人束腰支又歸貴介挂魚龜

戒婦度腰圍緩就太倉非吾事

宿宰府畱別松永子登上村太壽

小市淒涼燈火明旅甌飯香雜

是行人誰送人一夜謹咲驚逆旅

各自踰山坂駐杖望吾吾已遠

到碕從行後藤世張東還省母病

津城剪燈火細語夜把危千里

紙春勝圖

對對相儔閱幾春丹青眉目陟釐身不如世態薄於紙朝
作夫妻昏路人

入豐前

漁市依沙大内亭譙樓抗海小倉城青鞋始踏鎮西地二
嶋九州從是行

博臺帶歌謝松永子登惠帶

機聲扎扎夾街鳴博臺織帶舊聞名隱起翠紋龍脊直傍
排素線驚皓明一跨萬錢非虛價縷縷幾日織得成君不
見神后分婉此返旆誤向海中遺鰲帶化為綠洲約層波

萬松紫沙煙掩藹依樣創工宜擅長從佗窺伺費狡獪長

為美人束腰支又歸貴介挂魚龜因君今日縛逢腋裁縫

戒婦度腰圍緩就太倉非吾事唯恐詩瘦孔屢移應每結

宿宰府畱別松永子登上村太壽

小市淒涼燈火明旅甌飯香雜沙塵浴罷呼枕臥且語誰

是行人誰送人一夜謹咲驚逆旅豫怕別時悄傷神明朝

各自踰山坂駐杖望吾吾已遠

到碕從行後藤世張東還省母病賦此為別

津城剪燈火細語夜把危千里相提挈一日忽化離雪蓬

到碕從行後藤世張東還省母病賦此為別

津城剪燈火細語夜把危千里相提挈一日忽化離雪蓬

到碕從行後藤世張東還省母病賦此為別

萬松紫沙煙掩藹依樣創工宜擅長從佗窺伺費狡獪長

為美人束腰支又歸貴介挂魚龜因君今日縛逢腋裁縫

戒婦度腰圍緩就太倉非吾事唯恐詩瘦孔屢移應每結

宿宰府畱別松永子登上村太壽

小市淒涼燈火明旅甌飯香雜沙塵浴罷呼枕臥且語誰

是行人誰送人一夜謹咲驚逆旅豫怕別時悄傷神明朝

各自踰山坂駐杖望吾吾已遠

到碕從行後藤世張東還省母病賦此為別

津城剪燈火細語夜把危千里相提挈一日忽化離雪蓬

從後... 中... 眼... 首... 屈... 亦... 在... 出... 硯... 裡... 山...

篋... 長... 山...

漢水上雨簑筑山陞寓居杯更洗旅館飯共炊從後時穿
眼追及復解頤執杖諠已盡陟此情可思促汝治行李東
首臨路岐回顧曾歷地雲山何邈迤逡巡未為發念余獨
畱茲吾恐涉暑路毀傷汝膚肌慎勿貪程頓舟輿從所宜
屈指幾旬外欣奔拜萱帷過洛見家室平安煩報知余游
亦已倦季秋以為期握手鴨水上當共話此時
在赤關得一佳紙欲用作畫未成而發卷在于橐時
出點深至此乃成
硯海偷閑畫半成齋來瓊浦筆方停筑峰豐嶺迎還送篋
裡青山未了青

背文... 鏡... 人... 知... 為... 背... 塵... 溯...

將發碣港了諸受託書畫拮据數日賦此自嘲
客窻作字墨頻乾自咲閑身終未閑晚際研坳餘瀋在又
將渴筆寫秋山
北渡再投廣江氏
人烟萬戶擁潮橫遙認君家高樹明未繫歸舟心已醉預
知家釀待吾傾
為女玉蘊題其所弃古鏡
背文綠鏤雜珠斑猶覺銅光照膽寒一段傷心誰得識凝
塵影裡舞孤鸞
溯秦水

密竹疎楊壓岸坳，短篷數數拂低梢。飽看左右青山好，一任沙灘舟數膠。

松山

隔岸簷牆閃夕陽，傾壺沙際綠苔香。秋溪一半青山影，分付遊人納晚涼。

下曦水

瓜皮一瓣剪盤渦，兩岸爭迎幾翠螺。寄語舟人徐刺棹，好山可惜瞥然過。

岡山夜遊

積薪堆畔倚胡牀，月黑依稀認宿檣。前岸知佗人未寐，樓

瓜皮一瓣剪盤渦
瓜皮一瓣剪盤渦
瓜皮一瓣剪盤渦

燈落水幾條長。

開春初三日，雪諸友來訪。擁衾宿醉未全醒，臥聽低檐崩雪聲。個裏非君來喚起，小樓閑卻此朝晴。

題畫

密樹礙斜陽，夾溪嵐翠冷。馬過橋背來，忽見鞭絲影。

元日

光陰意緒兩奔馳，纔喚春時覺漏遲。酒罷呼燈無個事，帶將殘醉又觀碁。

移居

移居

個裏
個裏
個裏

光陰
光陰
光陰

鋤荒栽樹汗沾衣，稍覺園容綠四圍。更慮南籬春寂寞，又乘疎雨插薔薇。

墨池熱際動乾枯，須趁晨涼喚筆奴。手汲井華供洗研，平分與石菖蒲。

一雨新涼欲透衣，怪吾園桂著花遲。西窗掃研了書債，便有幽香襲隙縻。

題雲泉画山水

八面玲瓏盡是梅，詩脾知不貯纖埃。有時洗研門前水，一種幽香雜麝煤。

遊糺林

手汲井華洗研平
不研中石菖蒲
分付與石菖蒲
一雨新涼欲透衣
便有幽香襲隙縻
西窗掃研了書債
香加里手洗研平
詩脾知不貯纖埃
八面玲瓏盡是梅
一種幽香雜麝煤

潺湲水石映涼棚，殘照全消暗綠層。要看晚流金破碎，未收杯去又呼燈。

謝小石元瑞贈盆栽碧花

縛籬仵種牽牛，未看長鬚弄綠柔。矮本大花誰割愛，付吾早領一盆秋。

元日

早被妻兒喚起眠，熹微初日到窻邊。硯差解凍堪書句，梅未開，花已帶烟。暖晚應因春有閏，曆新便覺日如年。病夫也自情懷好，未夕團樂開酒筵。

春風翁新築別業寄題二首

縛籬仵種牽牛
未看長鬚弄綠柔
矮本大花誰割愛
付吾早領一盆秋
元日
早被妻兒喚起眠
熹微初日到窻邊
硯差解凍堪書句
梅未開
花已帶烟
暖晚應因春有閏
曆新便覺日如年
病夫也自情懷好
未夕團樂開酒筵

煮海舊餘地看山新築亭穿渠引潮水栽樹役丁吟步

蟹逃匿獨眠鷗喚醒何時攜小阮談笑侍傾餅

閑遊攜筆研畱宿有庖廚盤錯煨紅鬣階苔養綠鬚題詩

皆骨肉行酒或僮奴遙料稚孤長能從杖策無

使又兒齋梅往贈信侯賦此為副

老樛抽得一條枝枝稚春寒花發遲遣侍君家讀書帳溫

存應有吐芳時

上巳

乍晴溪水漲新種野桃開濁酒同誰酌佳辰有客來暮橋

人影小春岸柳烟堆俯仰成陳跡請君姑盡杯

煮海一亭... 地少... 蟹逃... 閑遊... 皆骨肉... 使又兒齋... 老樛... 存應有... 上巳... 乍晴... 人影...

同鄉客至冒雨共遊沙河

名別在律云分イコレ草日

苦調... 玄孫... 揚雲... 魏曹操... 天下大亂... 度力之中... 沃キニハ

到曹家刀俎邊

題畫

林巒分水色一堤可來往茅屋住兩頭書聲迭傳響應是
素心人卜鄰占境爽麥飯時相招飯罷又放杖夕陽滿堤
紅行談且抵掌顧笑堤波中帽影自兩兩

素心... 夕陽...

親到... 生... 少...

煮海舊餘地看山新築亭穿渠引潮水栽樹役丁吟步

蟹逃匿獨眠鷗喚醒何時攜小阮談笑侍傾餅

閑遊攜筆研畱宿有庖廚盤錯煨紅鬣階苔養綠鬚題詩

皆骨肉行酒或僮奴遙料稚孤長能從杖策無

使又兒齋梅往贈信侯賦此為副

老樛抽得一條枝枝稚春寒花發遲遣侍君家讀書帳溫

存應有吐芳時

上巳

乍晴溪水漲新種野桃開濁酒同誰酌佳辰有客來暮橋

人影小春岸柳烟堆俯仰成陳跡請君姑盡杯

煮海亭... 山陽先生遺稿拾遺... 佳詩... 倚仰... 又兒齋... 老樛... 存應有吐芳時... 上巳... 乍晴溪水漲新種野桃開濁酒同誰酌佳辰有客來暮橋... 人影小春岸柳烟堆俯仰成陳跡請君姑盡杯

同鄉客至冒雨共遊沙河

春泥猶杖屐野店亦杯觥適遇同鄉客何期異日晴禽聲

吟步... 小阮... 同鄉客至冒雨共遊沙河... 春泥猶杖屐野店亦杯觥適遇同鄉客何期異日晴禽聲

題畫

林巒分水色一堤可來往茅屋住兩頭書聲迭傳響應是
素心人卜鄰占境爽麥飯時相招飯罷又放杖夕陽滿堤
紅行談且抵掌顧笑堤波中帽影自兩兩

素心人世中... 夕陽滿堤

煮海舊餘地看山新築亭穿渠引潮水栽樹役鋸丁吟步
蟹逃匿獨眠鷗喚醒何時攜小阮談咲侍傾餅
閑遊攜筆研畱宿有庖廚盤錯煨紅鬣階苔養綠鬚題詩
皆骨肉行酒或僮奴遙料稚孤長能從杖策無
使又兒齋梅往贈信侯賦此為副
老樛抽得一條枝枝稚春寒花發遲遣侍君家讀書帳溫
存應有吐芳時

上巳

乍晴溪水漲新種野桃開濁酒同誰酌佳辰有客來暮橋
人影小春岸柳烟堆俯仰成陳跡請君姑盡杯

煮海舊餘地看山新築亭穿渠引潮水栽樹役鋸丁吟步
蟹逃匿獨眠鷗喚醒何時攜小阮談咲侍傾餅
閑遊攜筆研畱宿有庖廚盤錯煨紅鬣階苔養綠鬚題詩
皆骨肉行酒或僮奴遙料稚孤長能從杖策無
使又兒齋梅往贈信侯賦此為副
老樛抽得一條枝枝稚春寒花發遲遣侍君家讀書帳溫
存應有吐芳時

同鄉客至冒雨共遊沙河

名別在律云分イコレ其日

春泥猶杖屐野店亦杯觥適遇同鄉客何期異日晴禽聲
重還滑花色濕逾明歸到逢親舊狂夫唯醉生

楊震三魚圖

誤值三鱸示瑞處苦調九鼎沸羹年玄孫他日為魚肉又
到曹家刀俎邊

題畫

林巒分水色一堤可來往茅屋住兩頭書聲迭傳響應是
素心人卜鄰占境爽麥飯時相招飯罷又放杖夕陽滿堤
紅行談且抵掌顧笑堤波中帽影自兩兩

柳東三魚圖
親到沙河
楊震三魚圖
誤值三鱸示瑞處苦調九鼎沸羹年玄孫他日為魚肉又
到曹家刀俎邊

素心人世中
夕陽滿堤

同君彝遊嵐山宿一僧寺

不得觥船花底歡君來嵐峽已春闌鬢絲非復揚州舊雷
個霜楓且共看

題三香圖高李迪有此詩因用其語

侵鞞胡塵隔洛陽羅浮湘水路空長春風吹遍江南信始
見離魂一本香

虎

人閒陷穽咲渠撓睡足岳坳山月高不敢措痒搖草木恐
佗百獸漫奔逃

今春迎母京寓屬親信舟護而來竢之津上浹旬阻

侵鞞 胡塵 隔洛陽 羅浮 湘水路 空長春 風吹遍 江南 信始 見離魂 一本香 虎 人閒 陷穽 咲渠 撓睡 足岳 坳山 月高 不敢 措痒 搖草木 恐 佗百 獸漫 奔逃

風雨不時至

帆席迢遙迎母來板輿準擬看花回餘寒願得西風峭使

峭 魚貫行舟

不 友辨一瓢膝前傾洗杯長流水慈

顏方暢榮同舟喧咲語誰知母子情

揚井孫太郎扈其戾入封池五山有送詩依韻為贈

揚新喪父

板輿 一矢 板輿 一矢 板輿 一矢 板輿 一矢

同君彝遊嵐山宿一僧寺

不得觥船花底歡君來嵐峽已春闌鬢絲非復揚州舊雷
個霜楓且共看

題三香圖高李迪有此詩因用其語三香圖水也梅

侵鞞胡塵隔洛陽羅浮湘水路空長春風吹遍江南信始
見離魂一本香香也水也梅也

虎虎也

人間陷穽咲渠撓睡足岳坳山月高不敢措痒搖草木恐
佗百獸漫奔逃

今春迎母京寓屬親信舟護而來竢之津上浹旬阻

侵鞞 胡塵 隔洛陽 羅浮 湘水路 空長春 風吹遍 江南 信始 見離魂 一本香 虎 人間 陷穽 咲渠 撓睡 足岳 坳山 月高 不敢 措痒 搖草木 恐 佗百獸 漫奔逃

風雨不時至

帆席迢遙迎母來板輿準擬看花回餘寒願得西風峭使

板輿 帆席 迢遙 迎母 來板 輿準 擬看 花回 餘寒 願得 西風 峭使

不飛

不飛 虎 帆 席 迢 遙 迎 母 來 板 輿 準 擬 看 花 回 餘 寒 願 得 西 風 峭 使

到今日始入京行廚謀友辨一瓢膝前傾洗杯長流水慈
顏方暢榮同舟喧咲語誰知母子情

揚井孫太郎扈其戾入封池五山有送詩依韻為贈
揚新喪父

同君彝遊嵐山宿一僧寺

不得觥船花底歡君來嵐峽已春闌鬢絲非復揚州舊雷
個霜楓且共看

題三香圖高李迪有此詩因用其語三香圖水仙梅

侵鞞胡塵隔洛陽羅浮湘水路空長春風吹遍江南信始

見離魂一本香水仙梅一香梅一香梅

虎虎

人間陷穽咲渠撓睡足岳坳山月高不敢措痒搖草木恐
佗百獸漫奔逃

今春迎母京寓屬親信舟護而來竢之津上浹旬阻

侵鞞 胡塵 隔洛陽 羅浮 湘水路 空長春 風吹遍 江南 信始 見離魂 一本香 水仙梅 一香梅 一香梅 虎 人間 陷穽 咲渠 撓睡 足岳 坳山 月高 不敢 措痒 搖草木 恐佗 百獸 漫奔 逃

風雨不時至

帆席迢遙迎母來板輿準擬看花回餘寒願得西風峭使

女且及此月

板輿 一 矢 板 帆 席 迢 遙 迎 母 來 板 輿 準 擬 看 花 回 餘 寒 願 得 西 風 峭 使

魚貫行舟魚貫行舟

魚貫行舟魚貫行舟

以繹路徑黃菜舟人魚貫行時過
元城州山迎人得眼明千里迎母
又辨一瓢膝前傾洗杯長流水慈
誰知母子情

楊井孫太郎扈其戾入封池五山有送詩依韻為贈

楊新喪父

同君彝遊嵐山宿一僧寺

不得觥船花底歡君來嵐峽已春闌鬢絲非復揚州舊雷
個霜楓且共看

題三香圖高李迪有此詩因用其語三香圖水仙梅

侵鞞胡塵隔洛陽羅浮湘水路空長春風吹遍江南信始
見離魂一本香水仙梅一縷香梅

虎虎人閒陷穽吟渠撓睡足岳岫山月高不敢措痒搖草木恐
侘百獸漫奔逃

今春迎母京寓屬親信舟護而來蒞之津上浹旬阻

風雨不時至

帆席迢迢迎母來板輿準擬看花回餘寒願得西風峭使
母早來花鮑開

奉母溯淀

履聲喧蓬上過橋已離城繹路徑黃菜舟人魚貫行時過
綠楊岸縮首避枝橫漸見城州山迎人得眼明千里迎母
到今日始入京行廚謀友辨一瓢膝前傾洗杯長流水慈
顏方暢榮同舟喧吟語誰知母子情

楊井孫太郎扈其戾入封池五山有送詩依韻為贈

楊新喪父

侵鞞 胡塵隔洛陽 羅浮湘水路空長 春風吹遍江南信 始見離魂一本香 水仙梅一縷香梅

板輿 準擬看花回 餘寒願得西風峭 使母早來花鮑開

暫御賢勞錐處囊錦歸回首六炎涼戒輿曉驛裳衣倒導
戰薰風號帶香駕入舊封羣指目衛隨新隊見榮光兩朝
世美傳佳譽誰識皋魚感獨長

古車釭歌為田飛州作

佳詩

穀端之鐵名曰釭環中受軸虛其腔穀腐軸朽釭獨存觀
者不識語紛囁田君所獲鐵色老銘曰久安四年造鋪紋
斑剝見脂痕把玩懷古真可寶當時大亂始萌芽兩義爭
轡相傾斜爾來万輪動旁午欲問汝釭在誰車或載傲狠
惡左府數夕新院必見取或從悍厲高平太當其著履未
相賴典既記榮曾繫鞭汝或幹事侍控弦攝政遭暴會折

軾汝或當危患福仄後來或就旭將軍不習用汝勞汝筋
倒載濫呼牛兒笑汝聲嘔軋不可聞一自庸材當鈞軸每
使中原開長轂華軒乘雀急何用朽索馭馬悍難服大君
無軌納万民南轅之駕不再復八輛載馘鬪犬猿海內宛
如脫穀輻幾度兵燹陵谷新不從馬蹄碎為塵古董混陳
平安市忽逢好事換錢緡倩工補當用盛筆硯席長儔太
平人釭兮兮汝視幾顛跌輪般血欽汝虛心閱興滅
發尾路諸子送至今津

同雲漠漠裏朝暾相送村場且對尊自有交情淡似雪未
歎鴻爪不留痕

暫御賢勞錐處囊錦歸回首六炎涼戒輿曉驛裳衣倒導
戰薰風號帶香駕入舊封羣指目衛隨新隊見榮光兩朝
世美傳佳譽誰識皋魚感獨長
古車釭歌為田飛州作
佳詩
穀端之鐵名曰釭環中受軸虛其腔穀腐軸朽釭獨存觀
者不識語紛囁田君所獲鐵色老銘曰久安四年造鋪紋
斑剝見脂痕把玩懷古真可寶當時大亂始萌芽兩義爭
轡相傾斜爾來万輪動旁午欲問汝釭在誰車或載傲狠
惡左府數夕新院必見取或從悍厲高平太當其著履未
相賴典既記榮曾繫鞭汝或幹事侍控弦攝政遭暴會折
軾汝或當危患福仄後來或就旭將軍不習用汝勞汝筋
倒載濫呼牛兒笑汝聲嘔軋不可聞一自庸材當鈞軸每
使中原開長轂華軒乘雀急何用朽索馭馬悍難服大君
無軌納万民南轅之駕不再復八輛載馘鬪犬猿海內宛
如脫穀輻幾度兵燹陵谷新不從馬蹄碎為塵古董混陳
平安市忽逢好事換錢緡倩工補當用盛筆硯席長儔太
平人釭兮兮汝視幾顛跌輪般血欽汝虛心閱興滅
發尾路諸子送至今津
歎鴻爪不留痕

渡部競

伴甘羈絆列新班奪士何如奪馬難不用煩佗施烙印舊
恩銘在肺肝閒

下淀

奉母攜兒幾往還一江不改舊潺湲生離死別無窮恨寄
在篙聲蓬影閒

誘承弼南遊戲作

南遊過拉君欲出還首鼠留吾呼別酒吾望君出祖墨水
旗店好文蛤侑絲醪豪來意前卻暗以指畫肚乘其醉未
醒相挽赴界浦且聯一宿枕酒醒忽獨語雖歡友侶牽亦

○生離死別し母々
か活するまゝ生離
巨見ハ死ソ離々々
死別ハ何々

○ 物出...
病ハ出掛テ存字
ドモモモモモ
下三三香鼠トハ
マカハ人子ハミトカ
イタハ子ハ三流カ
フハシタハスツ
ハハハハハハハハ
ハハハハハハハハ
ハハハハハハハハ

○ 南遊過拉君欲出還首鼠留吾呼別酒吾望君出祖墨水
旗店好文蛤侑絲醪豪來意前卻暗以指畫肚乘其醉未
醒相挽赴界浦且聯一宿枕酒醒忽獨語雖歡友侶牽亦

口鼓

口鼓^レ夜半^レ區^レる^レ云^レ
舞^レ翰^レ明^レ字^レ系^レ友^レ彦^レ
認^レ為^レ庸^レ巨^レ見^レ世^レ三^レル^レハ

檀

檀公^レ神^レサテ^レ夫^レ分^レ分^レカ^レイ^レハ
園^レ南^レ羽^レハ^レサ^レ子^レ中^レ三^レル^レ文^レ字^レ三^レ南^レハ^レカ^レツ^レテ^レ羽^レ智^レ異^レ

圖

圖南^レ子^レテ^レ云^レ三^レテ^レ列^レ新^レ知^レ物^レノ^レ方^レニ^レ絲^レニ^レキ^レ子^レシ^レ
北^レ轅^レ乳^レコ^レカ^レラ^レ光^レ公^レカ^レ地^レノ^レ方^レノ^レ向^レタ^レト^レハ^レ初^レテ^レイ^レケ^レル^レシ^レタ^レ如^レカ^レ稻^レ

北轅

坐閱憧憧來往饒小樓簾影水中搖道人心地無喧寂暫
住三條第二橋

棕隱僦居北鄰見贈長律姑酬以一斷句詩ハ格別
コハ格別

渡部競

伴甘羈絆列新班奪士何如奪馬難不用煩佗施烙印舊
恩銘在肺肝閒

生離死別に母々

鼓し夜半泣く

朝倉承弼の母を以て云ふ

操執明し子系は友陸し

檀公

圓擁

圖南

北轆

虎

頭不回

誰

坐閱憧憧來往饒小樓簾影水中搖道人心地無喧寂
住三條第二橋

棕隱儼居北鄰見贈長律姑酬以一斷句

山陽先生遺稿拾遺

詩

十一

ハコトノ生シテケミ
レテミテゴサル
ハコトノ生シテケミ
レテミテゴサル
ハコトノ生シテケミ
レテミテゴサル

渡部競

伴甘羈絆列新班奪士何如奪馬難不用煩佗施烙印舊
恩銘在肺肝閒

下淀

奉母攜兒幾往還一江不改舊潺湲生離死別無窮恨寄
在篙聲蓬影閒

誘承弼南遊戲作

南遊過拉君欲出還首鼠留吾呼別酒吾望君出祖墨水
旗店好文蛤侑綠醕豪來意前卻暗以指畫肚乘其醉未
醒相挽赴界浦且聯一宿枕酒醒忽獨語雖歡友侶牽亦

出... 誘承弼南遊戲作... 南遊過拉君欲出還首鼠留吾呼別酒吾望君出祖墨水... 旗店好文蛤侑綠醕豪來意前卻暗以指畫肚乘其醉未醒相挽赴界浦且聯一宿枕酒醒忽獨語雖歡友侶牽亦

恐妻孥咻擲枕決歸計披衣已五鼓滿室方勦貽匍匐行
出戶店婆怪其狀大聲呼同侶不知操觚朋認爲擔囊虜
檀公策雖上孟嘗計何補圍擁課而行圖南終連羽北轅
縱能遂獨行苦蹣跚無伴且無酒如兒奪哺乳圍圍戀爾
餌同隊止跋扈擾狎騎神龍羅網押猛虎頭不回千駟身
豈贖五穀誰知故人臂一牽勝圭組

詩僧可山寓三條子橋招余許飲

坐閱憧憧來往饒小樓簾影水中搖道人心地無喧寂
暫住三條第二橋

棕隱儼居北鄰見贈長律姑酬以一斷句

詩天八

坐閱... 坐閱憧憧來往饒小樓簾影水中搖道人心地無喧寂暫住三條第二橋... 棕隱儼居北鄰見贈長律姑酬以一斷句

快書一語山陽
快書一語山陽
快書一語山陽

柳間一蛇林間
柳間一蛇林間
柳間一蛇林間

親公人西報
親公人西報
親公人西報

柳坂之詩三格別
柳坂之詩三格別
柳坂之詩三格別

柳有... 柳有...
柳有... 柳有...
柳有... 柳有...

柳有... 柳有...
柳有... 柳有...
柳有... 柳有...

快書隔樹和朝誦濁酒過墻同夕醺鴨岸斜陽叡峰月暨
將一半與君分

山崎枉路過尺大村寺痴禪師
路傍溪流幾曲斜林閒明滅觀長蛇禪房定在源頭處當
倩軍持汲煮茶

攝路書感
雙墳相望萬年愁右是河州左武州家國恩淡兩未報經
過此路廿餘秋

柳坂 在赤石城西赤松滿祐御京軍于此克之滿祐
短身曰三尺入道山名宗全色赤曰赤入道滿

柳子城頭稻抗馨憶昔兜豎曾橫行矮軀睥目是蟹耳時
無英雄成渠名猶有禡公撞巢穴介甲摧破從醢烹嘉吉

柳子城頭稻抗馨憶昔兜豎曾橫行矮軀睥目是蟹耳時
無英雄成渠名猶有禡公撞巢穴介甲摧破從醢烹嘉吉

枝是處有餘師
宴於杏坪叔水莊疊去歲唱和韻
小樓向翹鴨鳥啼出飲重遭大阮攜林隔市聲街面背簷

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書一誦山陽

快書隔樹和朝誦濁酒過墻同夕醺鴨岸斜陽叡峰月斃
將一半與君分

山碕枉路過尺大村寺痴禪師

路傍溪流幾曲斜林閒明滅觀長蛇禪房定在源頭處當

倩軍持汲煮茶

攝路書感

雙墳相望萬年愁右是河州左武州家國恩深兩未報經

過此路廿餘秋

蟬坂在赤石城西赤松滿祐禦京軍于此克之滿祐
短身曰三尺入道山名宗全色赤曰赤入道滿

祐殺普廣氏時以
舞至鸕飼爲期

蟬子城頭稻杭馨憶昔兇豎曾橫行矮軀睥目是蟹耳時

弟殤 封狼 虎 祖 子孫 西晉 司馬氏 三 白 有 十 八

枝是處有餘師

宴於杏坪叔水莊壘去歲唱和韻

小樓向翹鴨鳥啼出飲重遭大阮攜林隔市聲街面背簷

快書隔樹和朝誦濁酒過牆同夕醺鴨岸斜陽叡峰月斃
將一半與君分

山碕枉路過尺大村寺痴禪師

水之三

路傍溪流幾曲斜林閒明滅觀長蛇禪房定在源頭處當
倩軍持汲煮茶

攝路書感

梅河內判官成... 武安... 三...

雙墳相望萬年愁右是河州左武州家國恩淡雨未報經
過此路廿餘秋

蟬坂

在赤石城西赤松滿祐御京軍于此克之滿祐短身曰三尺入道山名宗全色赤曰赤入道滿祐殺普廣氏時以舞至鸕飼為期

蟬子城頭稻抗馨憶昔兇豎曾橫行矮軀睥目是蟹耳時
無英雄成渠名猶有楮公撞巢穴介甲摧破從醢烹嘉吉

正開應仁戶前殪封狼後翼虎卻記赤松扶大樹根株相
託呼為父子孫相剪天數存酷類賈家滅典午鯨吐鼈擲

四海沸不唯當日鸕鷀舞

石寒葉落雲林畫天大江明山谷詩筆墨何邊觀真訣第
枝是處有餘師

宴於杏坪叔水莊壘去歲唱和韻

小樓向翹鴨鳧啼出飲重遭大阮攜林隔市聲街面背簷

快書... 誦... 濁酒... 過牆... 同夕... 醺... 鴨岸... 斜陽... 叡峰... 月斃... 將一半與君分... 山碕... 枉路... 過尺大村寺... 痴禪師... 路傍... 溪流... 幾曲... 斜林... 閒明... 滅觀... 長蛇... 禪房... 定在... 源頭... 處當... 倩軍持... 汲煮茶... 攝路書感... 雙墳... 相望... 萬年... 愁右... 是河州... 左武州... 家國... 恩淡... 雨未... 報經... 過此路... 廿餘秋... 蟬坂... 在赤石城西赤松滿祐御京軍于此克之滿祐短身曰三尺入道山名宗全色赤曰赤入道滿祐殺普廣氏時以舞至鸕飼為期... 蟬子城頭稻抗馨憶昔兇豎曾橫行矮軀睥目是蟹耳時無英雄成渠名猶有楮公撞巢穴介甲摧破從醢烹嘉吉正開應仁戶前殪封狼後翼虎卻記赤松扶大樹根株相託呼為父子孫相剪天數存酷類賈家滅典午鯨吐鼈擲四海沸不唯當日鸕鷀舞石寒葉落雲林畫天大江明山谷詩筆墨何邊觀真訣第枝是處有餘師宴於杏坪叔水莊壘去歲唱和韻小樓向翹鴨鳧啼出飲重遭大阮攜林隔市聲街面背簷

舊題題死夕
夕如後(カシ)

離從一昔一
昔一廉一
以公一
二從一
時昔一
肉一
ツハ一
今日一
今日一
今日一
今日一

山陽先生遺稿拾遺

連橋影水東西故鄉好景不畱脚少日狂心真嗟臍親籍
更沾新涕淚吟筵忍看舊顏題扁字春風
仲父書

過廉塾適會十月望得時字限賦內字

月高人影小葉落鵲巢危非有酒魚待如何霜雪時遊從
問疇昔吟嘯亦相知今夜休須睡歸輪半樂悲

別小埜泉藏

港水離情孰淺淡漣漪夕照對孤斟一瓢尚是君家酒領
取故人相送心

山陽遺稿拾遺畢 大尾

山陽先生行狀

先生姓賴諱襄字子成通稱久太郎號山陽外史入
京又號三十六峰父春水先生諱惟完字千秋藝州
竹原人初寓大阪授徒娶阪處士飯岡氏女以安永
九年庚子生先生於江戶港天明元年辛丑春水先
生應本藩之聘乃徙廣嶋先生幼銳敏嶄然見頭
角年甫十三春水先生祗役在江戶作詩寄之柴野
博士見之大加歎賞曰千秋有子不教之為實材乃
欲使為詞人乎宜使其讀史知古今事而史自通鑑
綱目始會薩藩文學赤崎元禮歸國過廣嶋諗之先

生感奮日讀綱目然記治亂之大勢而已書法發明等不屑讀博士聞而益奇之年十八從叔父杏坪翁東游在尾藤博士塾一年而歸才學日進然以多病免仕藉有二弟皆夭一妹適藩士某春水先生乃養仲弟千齡子元鼎爲嗣文化七年庚午管茶山翁請督其塾生乃游備後明年辛未去游京師遂止焉時年三十二僑居車屋街徙于銅駝坊于木屋街文化十三年丙子二月聞春水先生疾篤時聚徒講莊子投卷卽發晨夜赴之自京及廣鳴殆百里五晝夜而至至則蔑及遺憾不能自置自是終身不復講莊子

前此元鼎亦早世先生在廣鳴娶藩士御園氏女生元協有故去於是元協以嫡孫承祖文政元年戊寅二月春水先生大祥忌歸展于廣鳴喪除遂游鎮西從豐筑入肥畱長崎二月強南極薩隅明年春歸廣鳴奉母夫人入京侍遊芳塾寧樂諸勝秋送至廣鳴爾後西省無虛歲後數迎之侍游伊勢及琵琶湖等先生旣客寓治家儉素不妄費一錢然其迎母夫人不問有無務奉懽心一日侍游嶋原登一大酒樓召妓樂侑酒朱觥銀盤盡其豐美從行婢見之愕然竊引先生袖曰阿主囊中物足以償之乎蓋先生以去

山陰先生行狀
國闕定省、淡自悔恨、欲報罔極之萬一、而春水先生
既逝、故欲報之母夫人也、六年癸未、買家三本木、稱
水西莊、庭中雜植梅花竹樹、扶疎爲蔭、置一小草堂
臨鴨水、對東山、稱山紫水明處、春花秋葉之候、皆可
坐而知焉、候至、輒攜童佩瓢、飄然出游、其他近畿名
勝古跡、游履殆遍、其游不預期、興至卽往、天保元年
庚寅、患胸痛、久而愈、三年壬辰、六月十二日、忽發咳
嗽、咯血、醫曰、是積年勞神所致、所謂肺血疾、不可治
也、先生豪傑、不怖死、故敢以實告、一醫曰、猶可療矣、
先生曰、死生有命、然我上有老母、且志業未成、假令

無一生理、宜加醫療、我慎服藥、傍爲死計耳、時方著
日本政記、乃日夜勉強構稿、曰、我必欲成之而入地、
及秋、疾益劇、慮母夫人憂之、戒家人使勿告、唯報以
微恙、可尋愈、往復書牘、勉強執筆、如平常、自始病、禁
酒不飲、而客至、爲設筵、談笑自若、病既革、曰、我死方
逼矣、然猶著眼鏡、手政記、刪潤不止、忽顧左右曰、且
勿喧、我將假寐、乃閣筆、不脫眼鏡而瞑、就撫之、則已
逝矣、實九月二十三日也、享年五十三、葬于東山長
樂寺、先生入京、娶小石氏、近江人、生三男、曰辰之助、
天、曰又二郎、時甫十歲、曰三木三郎、七歲、一女三歲、

山陽先生行狀
所著日本外史二十二卷、日本政記十五卷、通議二卷、春秋講義若干卷、先友錄一卷、文集十卷、書後題跋四卷、日本樂府一卷、詩鈔八卷、同遺稿八卷、外史之成、凡經二十年、既成、猶祕之家、白河少將樂翁公聞之、卑禮厚幣以請之、自是遂行于世、政記最晚年之作、記事多成于病中、而終不得全脫稿也、先生爲人癯瘦、顴高眉蹙、眼采炯炯、望之有威、性峻峭、不能包容尋常之人、常慨昇平日久、士氣不振、故以氣節自持、亦以導人、未嘗屈已隨人、浮沈求容、其去國誓曰、已不能仕父母之國、不復著朝服見貴人、在備後

茶山翁嘗欲薦之我藩、師作書辭之、入京後、每聞國侯朝江戸、往來過伏見、必著袴、南嚮望拜、諸藩多聘之、皆固辭不應、日野大納言公資愛好文辭、時招都下諸儒爲文字飲、聞其名請之、不往、其請至數四、乃陳野人不習禮節、若許野服出入、及賜予之際、無類臣禮者、則敢奉命、且言魚非琵琶湖之鮮、不能喫、酒非伊丹之釀、不能飲、公皆許之、乃往、翌日餽金以爲謝、先生見之曰、豈有禮幣而小書低書人名、自大署高署已名者、命塾生後藤機卻之、公從而謝之、益敬其不屈、至終訪其廬、諸儒中有議其倨慢者、先生聞之、

作書辭赴宴、爾後獨召賜宴、醉後時戲爲畫、一大幅
侯見而喜之、介人寄朝鮮布二幅、請畫焉、先生怒曰、
以我爲畫師乎、乃作二絕句、大書其布返之、其一曰、
曾謝橫經弄翰儒、寧能餘技備觀娛、胸中畫本猶堪
獻、彷彿豳風七月圖、有一生、請外史、師領之、後又來
促曰、欲獻一權貴焉、先生正色曰、我史非權門納媚
之具、竟不與、師才識天授、加之勵精不倦、甫六歲、忽
問母夫人曰、天何如物也、母曰、旋轉不止、如彼而已、
師遽下庭仰天嘆曰、不思議哉、啼泣半時許、自八九
歲喜讀國字本古今軍記、至忘寢食、嬉戲又搏土作

城郭軍營狀、旣受句讀、晝夜不懈、嘗患眼、春水先生
固禁之、陰讀不止、年十四五、受家學、小學近思錄、皆
已誦習、一日因曝書、見東坡史論、詫曰、天地間、有如
此可喜之文乎、遂肆力文章、最精於史學、家無藏書
四子五經白文、東坡集、唐宋八大家文數品、本朝史、
唯烈祖成績、藩翰譜而已、而古今史籍、制度、兵法、及
家譜、野乘、無不涉獵、終能成外史政記大著作、經說
歸主洛閩、而不甚墨守、要以通古聖賢立言大義爲
務、其議論以適用爲主、詩務敘實際、不事虛設、尤長
於歌行、喜咏史、雅言曰、余不欲詠物、咏物不若咏史

史中有無數好題目、隨讀者淺深皆可成真詩、舍之而曰雁字鶯梭、無爲也、書名亦譟、四方爭索、絹素滿室、然是皆緒餘、常用心者、經濟之學也、弱冠後擬蘇氏策論、作新策十餘篇、晚歲頗刪潤之、卽通議也、先死三日、忽曰、猶有不可不言者在焉、卽日草之內廷篇是也、先生名已重於一時、游京者多來求見、一切謝絕、非不得已則不見、平生耽讀書、勤著述、常曰、謂我才子、未悉我者也、謂我能刻苦者、真知我矣、日夕置酒草堂、必呼門生對飲、飲有限、限既盈、不過一杯、酒皆伊丹之釀、尤愛號劍菱者、酒醒、輒挑燈讀書、至

五更而後就寢、晝則已牌前起、自收衾裯、掃戶牖、以爲常、無寒暑、一也、性好古書畫、頗善賞鑑、所藏十餘幅、書則倪元璐、屠長卿、晝則盛茂暉、趙之璧等也、酒閒多談歷史、文章爲樂、其病、猪飼敬所翁來訪談及南北正統事、議大不合、戩時侍病、翁旣去、先生曰、苟以北朝爲正統、豈以新田楠諸公爲亂臣賊子乎、方言之之時、目張眉軒、其慷慨激烈、雖病不衰也、遂更著正統論、置之政記中、初論後、接人不設城府、直吐肝膈、人苟違其意、對面詰責、不少假借、改則止、未嘗毫介意、教門生、甚用意、講書、不抗聲飾辨、恂恂如談

山陰先生行狀
話倦則吹烟喫茶必摘發蘊奧剖析妙旨使人入
然而後止講經之席不冝列緇徒門生詩文有少可
觀者嗟稱不置曰使我爲之亦不過如此雖甚拙之
文改刪數四如其意而止哉從學僅二歲而先生厭
世慟哭無及乃輯錄平生所聞見及問同門友所得
草此狀嗟哉謏劣何能狀先生且所遺必多若其詳
備則俟元協及高足弟子述焉先生將死門人大雅
堂義亮能畫請寫其真自題其上曰身偃仰一室而
心關百世之失得不恤己鹽齏而憂人家國嗟是何
物迂拙男兒耶雖然烏知無念此迂拙者之時乎又

曰此膝不屈於諸侯聊答

故君之德此眼竭之於群籍不虛先人之囑此腳侍母
輿二躋芳山三蹕大湖四上下瀛灣而未會踵朱頓
之門此口不飴殘杯冷炙而此手欲援黔黎之寒餓
也嗚呼先生之爲人與所志盡於此矣固莫待哉輩
之言也門人備後江水戩謹狀

